No.299

鉄鋼需給四半期報

2026年4月

一般社団法人　日本鉄鋼連盟

The Japan Iron and Steel Federation
http://www.jisf.or.jp/

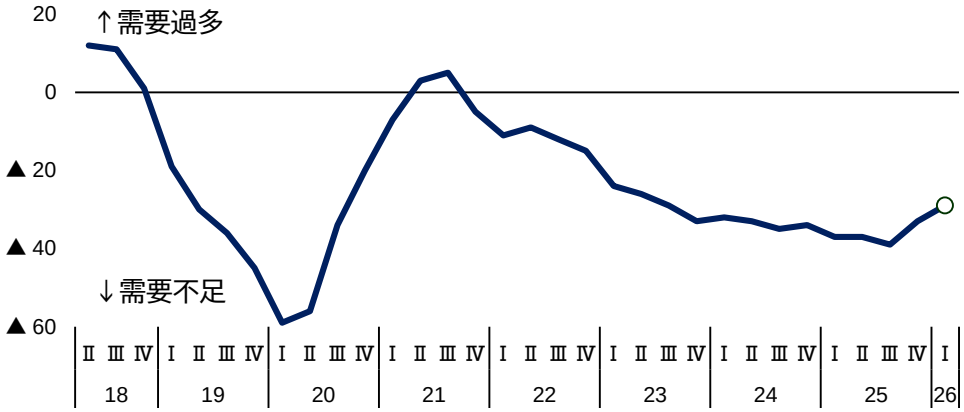
目次

Ⅰ．鉄鋼需給動向	・・・・・・・	3
1. 概要	・・・・・・・	3
2. 経済産業省見通し	・・・・・・・	4
3. 需要産業別の動向	・・・・・・・	5
4. 鉄鋼需給	・・・・・・・	12
Ⅱ．鋼材間接貿易と最終消費地の国際比較	・・・・・・・	17
1. イントロダクション	・・・・・・・	17
2. マクロ構造	・・・・・・・	20
3. 主要部門の構造	・・・・・・・	22
4. 国別の構造	・・・・・・・	29
5. True Steel Use	・・・・・・・	32
6. まとめ	・・・・・・・	35

概要

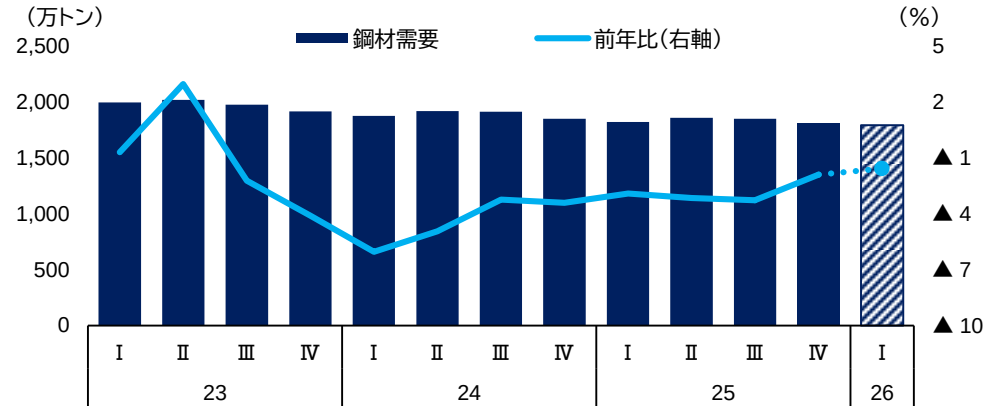
- 日銀短観（国内の需給判断DI／鉄鋼）では、需要不足との判断が続く。
- 他方、鋼材需要は需要産業活動が総じて弱いが、一部指標には改善も見られる。下振れリスクとして、中東の動向や米国の関税措置、過去最高で推移する中国の鋼材輸出などへの懸念が続く。
- 粗鋼生産は前年割れで推移。

国内需給判断DI（鉄鋼）



（出所）日本銀行、最新期は見通し

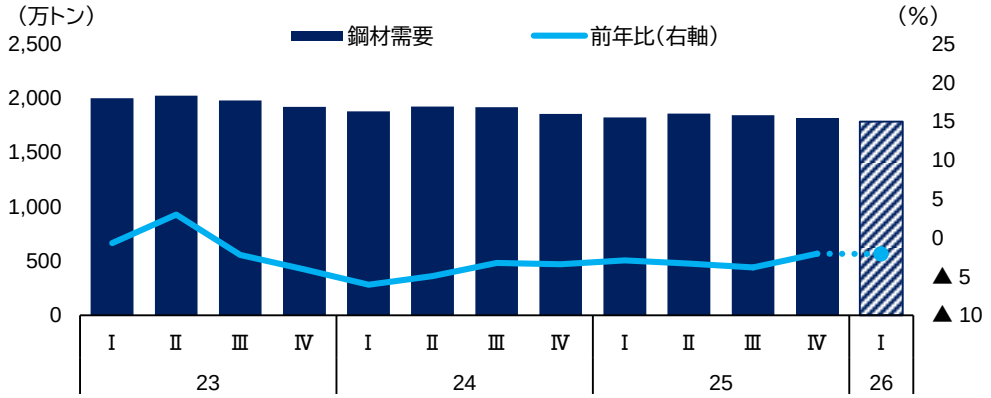
粗鋼生産



（出所）経済産業省

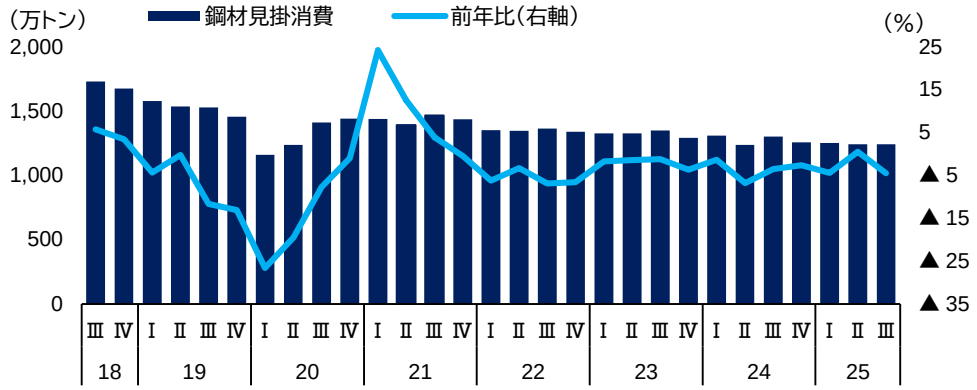
鋼材需要

■鋼材需要（内需＋外需）



（出所）経済産業省

■鋼材見掛消費



（出所）経済産業省、日本鉄鋼連盟より作成
（注）鋼材見掛消費は、「鋼材生産-メーカー・問屋在庫増減+鋼材輸入-鋼材輸出」で計算している。

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

2026年度第1四半期・経済産業省鋼材需要見通し

◇全体

- 26年度第1四半期(2026年4～6月期)の鋼材需要量は、前年同期比1.5%減の1,798万トンの見通し。
- 国内需要は前年同期比1.8%減の1,189万トン。輸出は前年同期比1.0%減の609万トン。

◇普通鋼

- 普通鋼鋼材需要量は、前期実績見込比0.5%減、前年同期比1.0%減の1,432万トンの見通し。
- うち、国内需要が前期実績見込比1.8%減、前年同期比1.6%減の922万トン。輸出では、中国、東南アジアを中心に需要が鈍く、日本に対する通商措置の影響が継続。前期実績見込比2.0%増、前年同期比0.2%増の510万トンの見通し。中国の鋼材需給、米国の関税政策の動向には注視が必要。

◇特殊鋼

- 特殊鋼鋼材需要量は、前期実績見込比4.3%減、前年同期比3.8%減の366万トンとなる見通し。
- うち、国内需要が前期実績見込比3.5%減、前年同期比2.6%減の267万トン。
- 輸出は、前期実績見込比6.3%減、前年同期比6.8%減の99万トンの見通し。

◇粗鋼需要

- 粗鋼需要量は前期実績見込比2.0%減、前年同期比0.7%減の2,000万トンとなる見通し。

経済産業省・26年度1Q鋼材需要見通し(2026年4月9日発表、左表:数量 万トン、右表:前年比増減率 %)

■内外需別

年度	25 Q1 実績	25 Q4 実績見込	26 Q1 見通し	25 Q1 実績	25 Q4 実績見込	26 Q1 見通し
鋼材需要	1,826	1,821	**1,798**	▲ 2.9	▲ 1.9	**▲ 1.5**
普通鋼	1,446	1,439	**1,432**	▲ 3.4	▲ 2.5	**▲ 1.0**
特殊鋼	380	382	**366**	▲ 0.8	0.6	**▲ 3.8**
内需	1,211	1,215	**1,189**	▲ 2.1	▲ 0.9	**▲ 1.8**
普通鋼	937	939	**922**	▲ 2.9	▲ 1.3	**▲ 1.6**
特殊鋼	274	276	**267**	0.6	0.5	**▲ 2.6**
外需	615	606	**609**	▲ 4.4	▲ 3.8	**▲ 1.0**
普通鋼	509	500	**510**	▲ 4.4	▲ 4.7	**0.2**
特殊鋼	106	106	**99**	▲ 4.3	1.0	**▲ 6.8**
粗鋼生産・需要	2,015	2,041	**2,000**	▲ 5.2	0.1	**▲ 0.7**

■部門別普通鋼内需

年度	25 Q1 実績	25 Q4 実績見込	26 Q1 見通し	25 Q1 実績	25 Q4 実績見込	26 Q1 見通し
普通鋼内需	937	939	**922**	▲ 2.9	▲ 1.3	**▲ 1.6**
建設	384	378	**372**	▲ 3.3	▲ 0.5	**▲ 3.2**
土木	124	141	**125**	▲ 7.1	2.5	**0.7**
建築	260	237	**247**	▲ 1.3	▲ 2.2	**▲ 5.0**
製造業	553	561	**550**	▲ 2.6	▲ 1.9	**▲ 0.5**
造船	76	71	**73**	▲ 7.1	▲ 12.6	**▲ 3.2**
自動車	238	234	**236**	▲ 0.0	▲ 3.3	**▲ 0.8**
産業機械	98	102	**100**	▲ 5.8	3.8	**2.4**
電気機械	57	64	**57**	▲ 0.7	0.6	**▲ 0.5**
二次製品	41	45	**40**	▲ 4.9	7.1	**▲ 2.0**
容器	21	21	**21**	▲ 0.9	3.5	**▲ 0.5**
その他	23	23	**23**	0.4	▲ 1.3	**1.8**

(出所)経済産業省(https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/iron_and_steel/index.html)
(注1)「粗鋼生産・需要」項目のうち、実績値は粗鋼生産量、見通しの数字は「出荷等相当粗鋼需要量」。
(注2)数量は、需要関連統計等を基に推計。

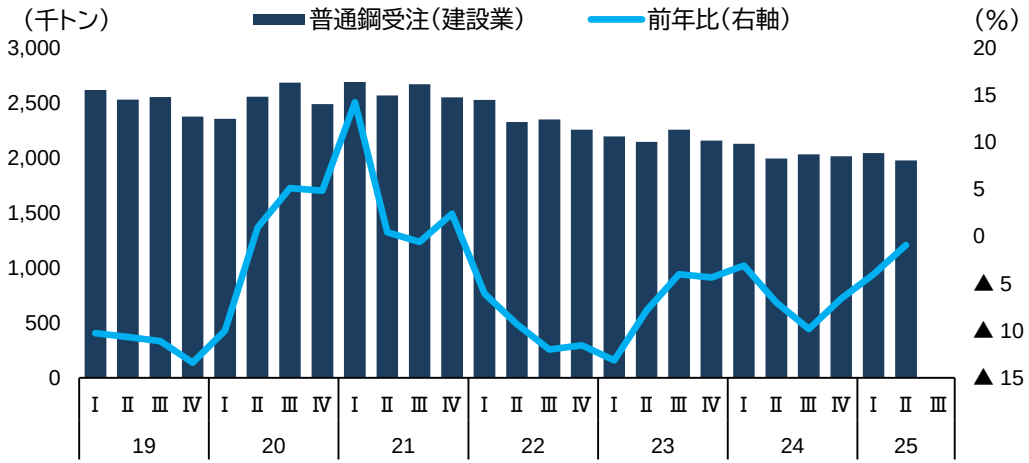
©2026 The Japan Iron and Steel Federation

普通鋼需要動向

鋼材受注統計

建設業

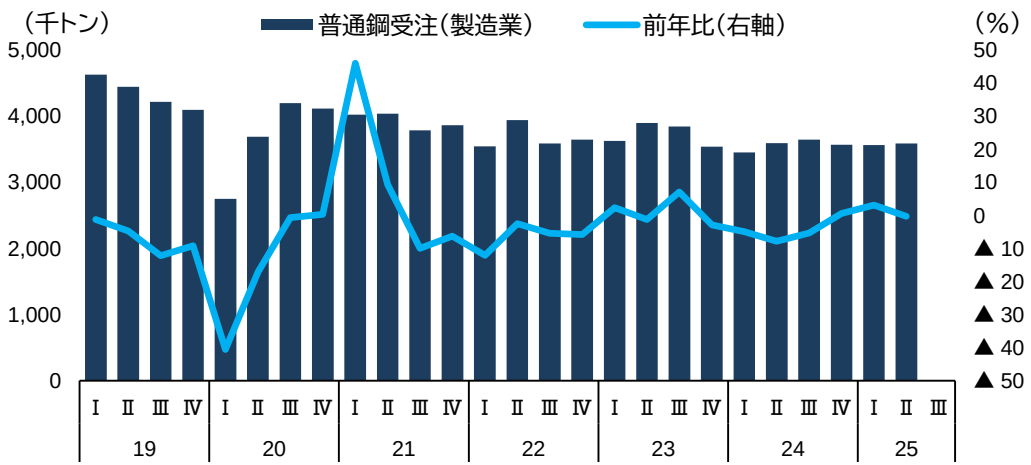
普通鋼受注(建設業)



(出所)日本鉄鋼連盟

製造業

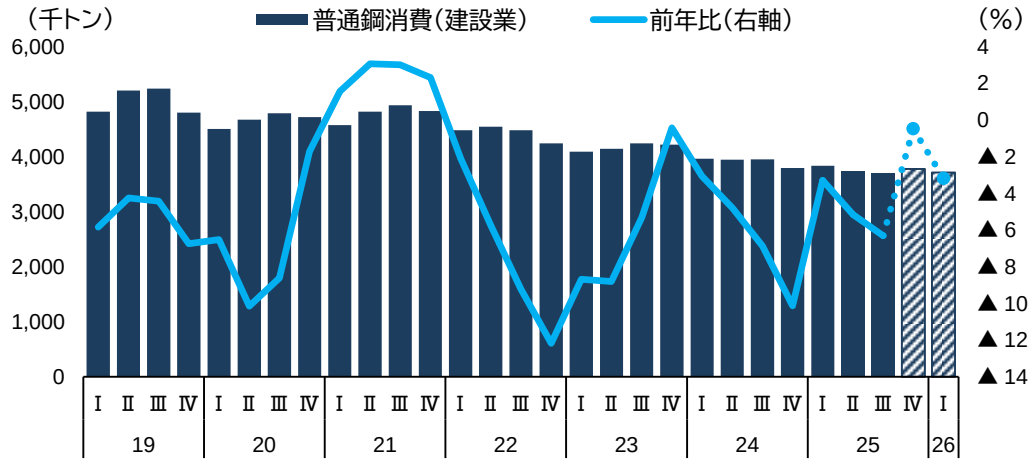
普通鋼受注(製造業)



鋼材消費量

建設業

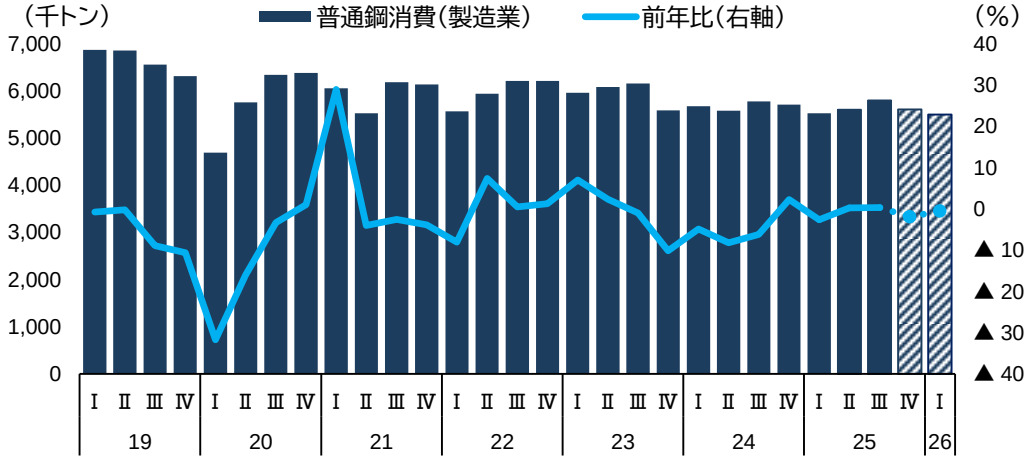
普通鋼鋼材消費(建設業)



(出所)経済産業省

製造業

普通鋼鋼材消費(製造業)



©2026 The Japan Iron and Steel Federation

土木部門

■土木

＜公共＞

- 令和8年度の一般公共事業予算、令和7年度の国土強靭化関係補正予算は前年度に引き続き高水準を維持。一方で建設コストの上昇も継続。

＜民間＞

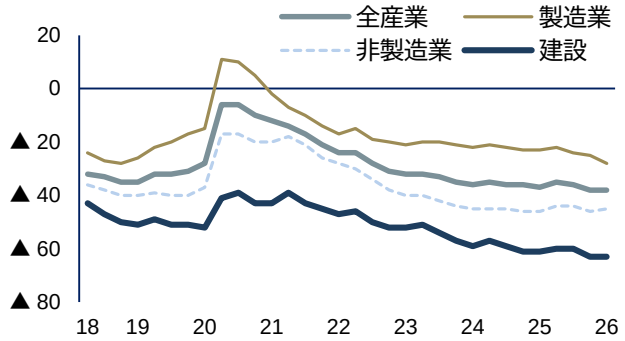
- 民間土木受注額は、設備投資需要などに支えられ活動水準は堅調に推移、受注額も大幅に増加しているものの、建設コスト上昇の影響もあり鋼材消費量は低調に推移。

■見通し

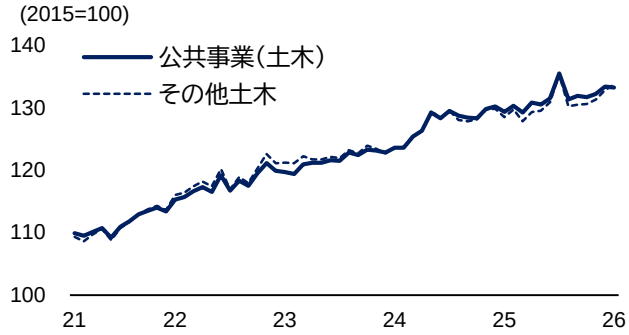
- 26年度1Qの鋼材消費は堅調な公共土木の動きによって、土木部門全体で前年比微増の見通し。

雇用・工事費指標

雇用人員判断DI



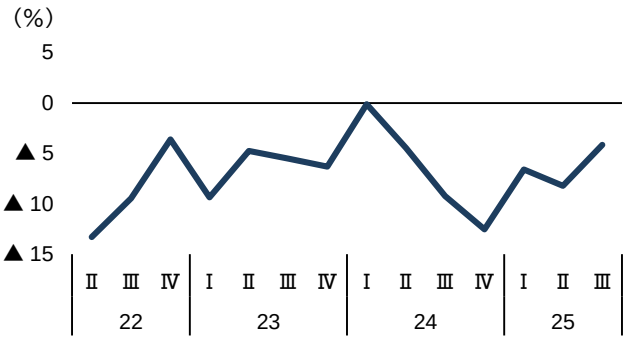
建設工事費デフレーター

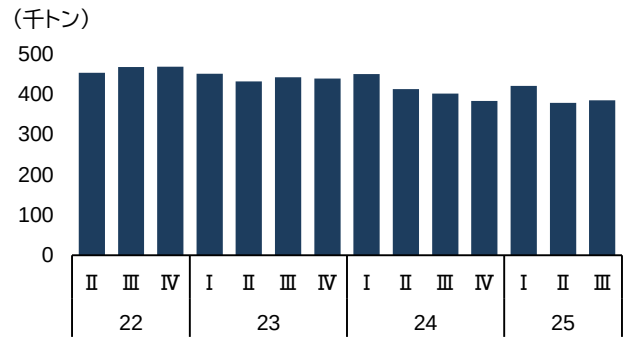


(出所)日本銀行、国土交通省

普通鋼鋼材受注

前年比

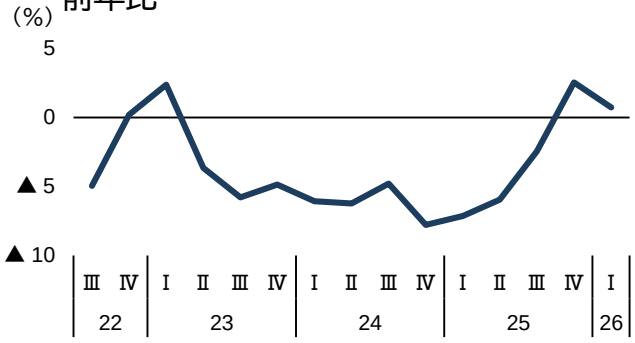


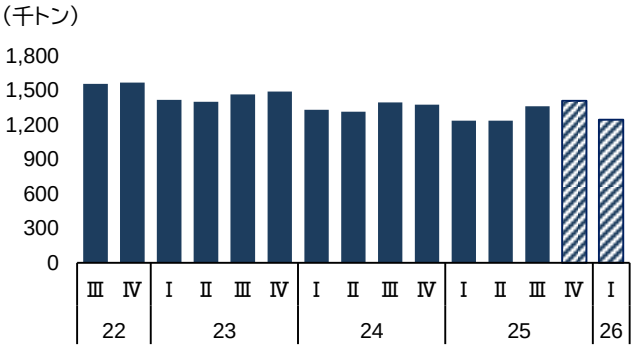


(出所)日本鉄鋼連盟

普通鋼鋼材消費

前年比





(出所)経済産業省

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

建築部門

■住宅

住宅全体の1Qの鋼材消費は、前年同期比増加の見通し。

- 2025年4月の省エネ法改正に伴い、低水準であった25年度の鋼材消費量と比較すると上回る見通し。
- 人件費含む建設コストの上昇、金利の先行き不透明感による下押し要因の影響が引き続き懸念。

■非住宅

非住宅全体の1Qの鋼材消費量は、前年同期比減少の見通し。

＜鉱工業用＞

- 設備投資意欲はあるものの、資材費高などを背景に建設投資は低調に推移する見通し。

＜運輸業用＞

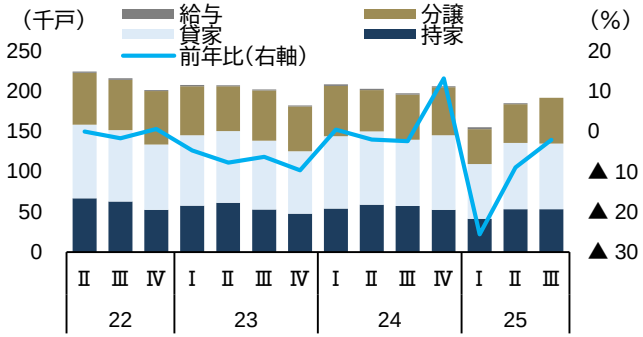
- 関西圏・名古屋圏では需要増。首都圏では上昇していた倉庫空室率が頭打ち。

＜商業サービス用＞

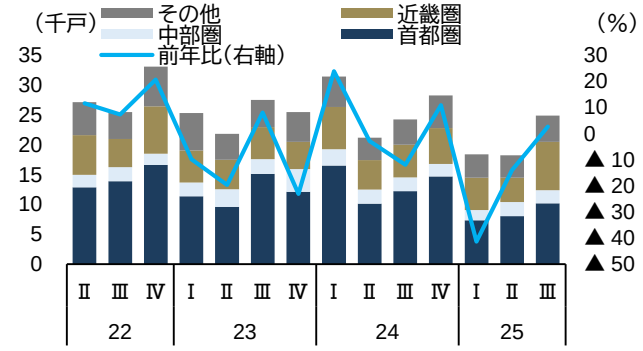
- 予算が潤沢な大型案件から徐々に着工が進む見込み。

住宅関連指標

新設住宅着工戸数(利用関係別)



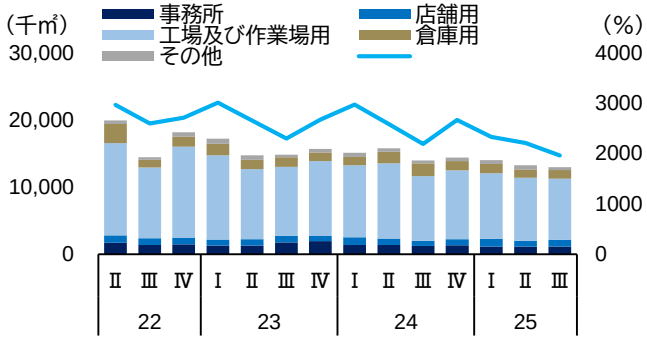
新設マンション着工戸数(地域別)



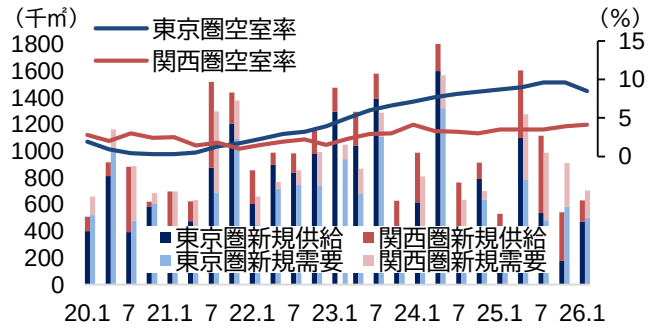
(出所)国土交通省

非住宅関連指標

非住宅着工床面積(使途別)



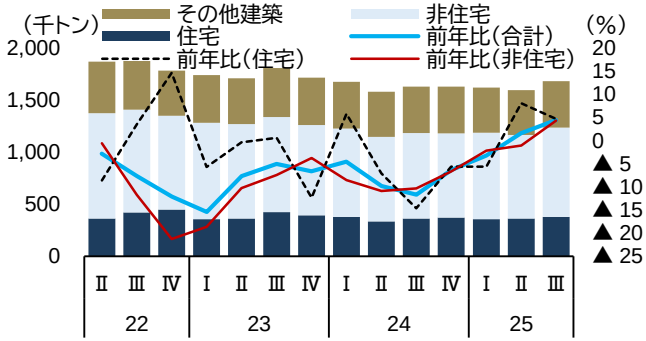
倉庫空室率



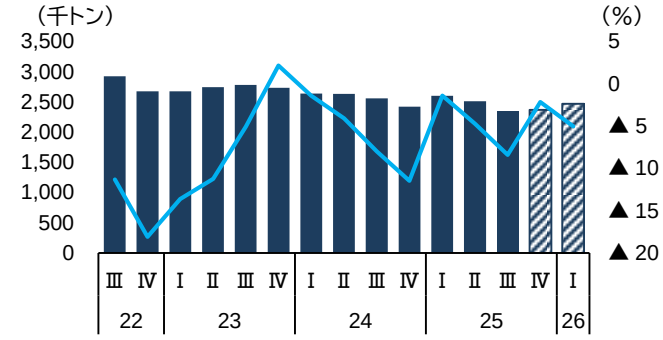
(出所)国土交通省、一五不動産

普通鋼鋼材需要

普通鋼鋼材受注(建築)



普通鋼鋼材消費(建築)



(出所)日本鉄鋼連盟、経済産業省

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

造船部門

■足元の動向

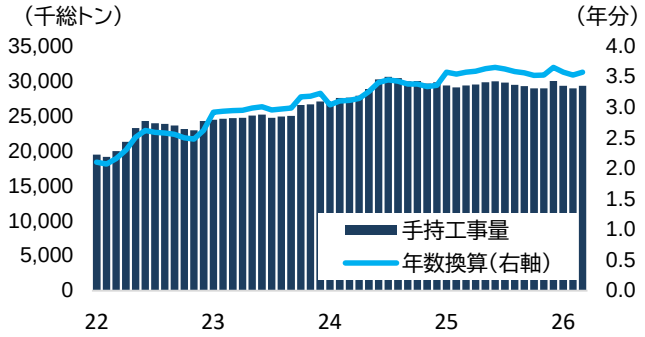
- 受注量は堅調に推移しているが、人手不足、労働規制を背景として建造ピッチは依然上がらず、船舶の仕様の転換期から設計面の遅延もあり、起工、竣工が先延ばしの状況。

■見通し

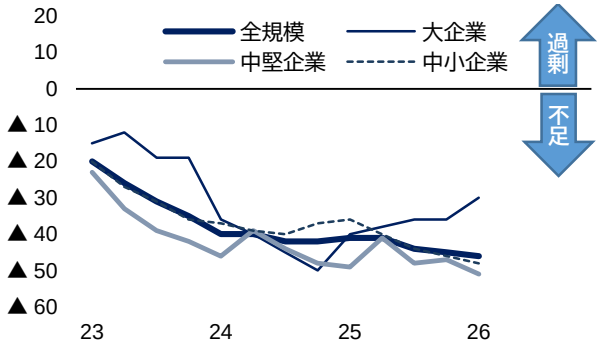
- 手持ち工事量は高水準を維持しつつも、人手不足など供給制約が引き続き影響し、26年度1Qでは鋼材消費量は減少の見通し。

造船関連指標

輸出船手持工事量



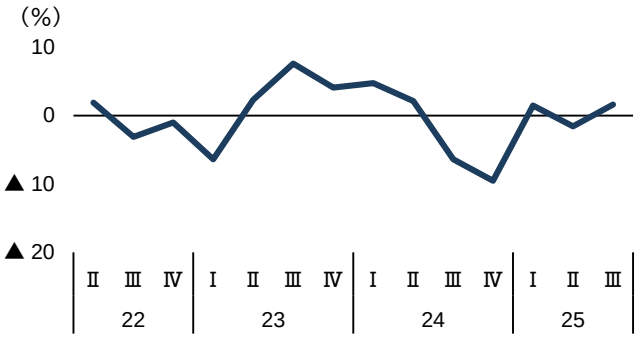
雇用人員判断DI

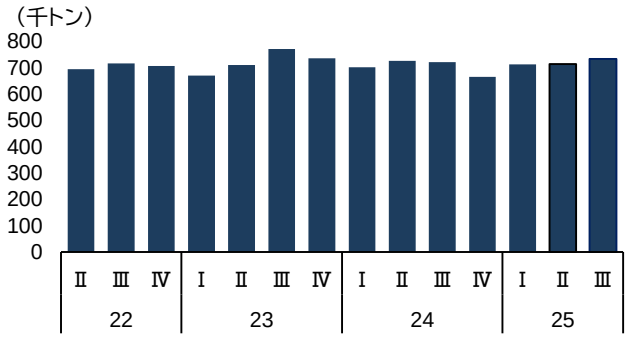


(出所)日本船舶輸出組合、日本銀行
(注1)手持工事量の年数換算は、手持工事量を前年度の輸出通関量で割ったもの。
(注2)雇用人判断DIは、「造船・重機、その他輸送用機械」の数値。

普通鋼鋼材受注

前年比

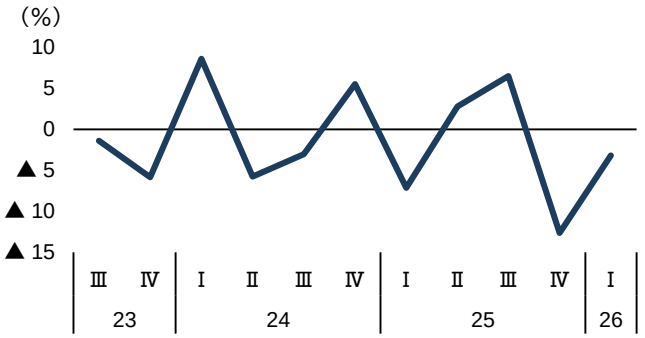


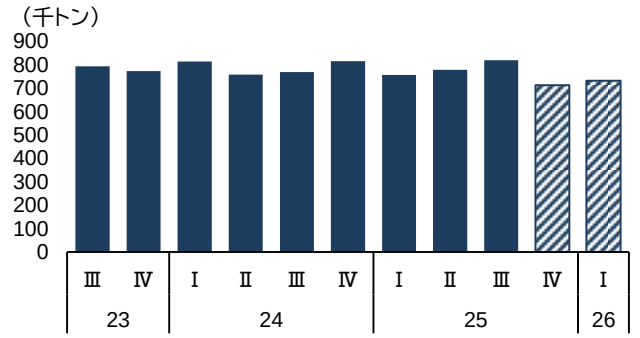


(出所)日本鉄鋼連盟

普通鋼鋼材消費

前年比





(出所)経済産業省

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

自動車部門

■足元の動向

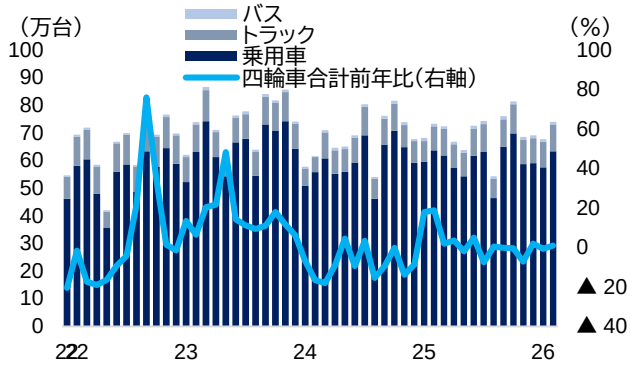
- 完成車生産は、足元の需要環境に大きな変化はなく、低位で推移している。
- KDセットは、中国での日系メーカーのシェアは低位で推移しており、東南アジアにおいても中国EV車の市場拡大によって日系メーカーのシェアは徐々に低下していることもあり低調。

■見通し

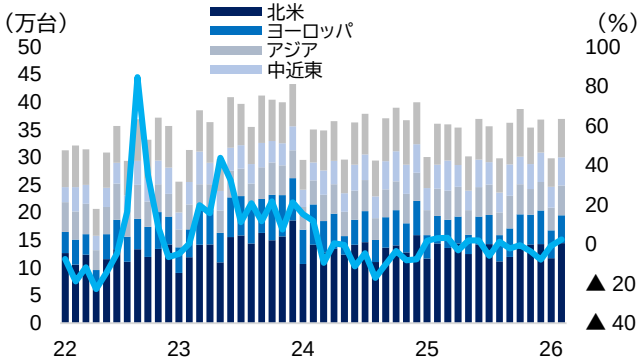
- 完成車は、国内外の需要減や、米国追加関税の影響が依然下押し要因として残っており、生産台数は前年比微減の見込み。
- KDセットの需要環境は勢いを欠くものの、前年との比較では増加となる見通し。
- 1Qの鋼材消費は前年から微減となる見込み。

自動車関連指標

四輪車生産台数



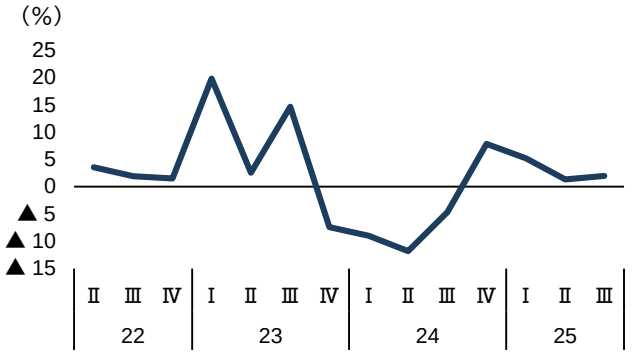
四輪車輸出台数

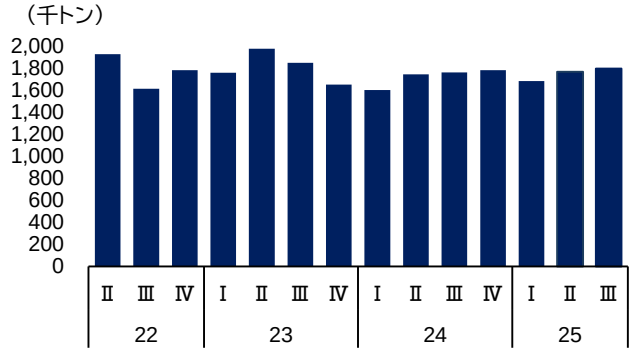


(出所)経済産業省、日本自動車工業会

普通鋼鋼材受注

前年比

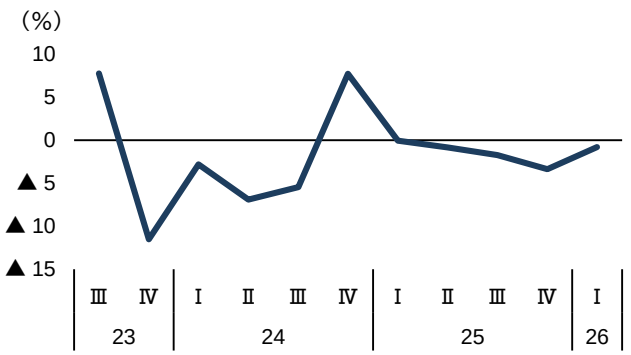


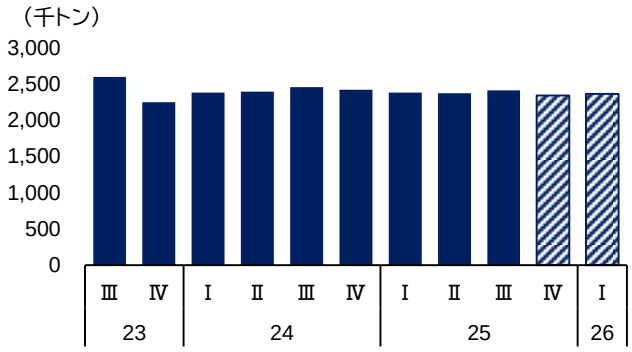


(出所)日本鉄鋼連盟

普通鋼鋼材消費

前年比





(出所)経済産業省

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

産業機械部門

■足元の動向

- 鋼材消費のウェイトが高い建設機械で底打ち感が見られる。
- 工作機械は、自動化や効率化の需要が続き、安定的に推移。

■見通し

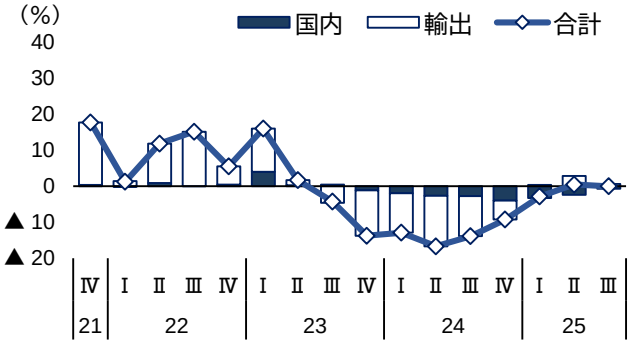
- 部門によって濃淡はあるものの、全体としてゆるやかな回復を見込む。
- 建設機械では、底打ち感が見られ、前年並みを見込む。
- 工作機械では、自動化・効率化の需要を受けて、1Qの鋼材消費は増加の見込み。

産業機械関連指標

機械受注額



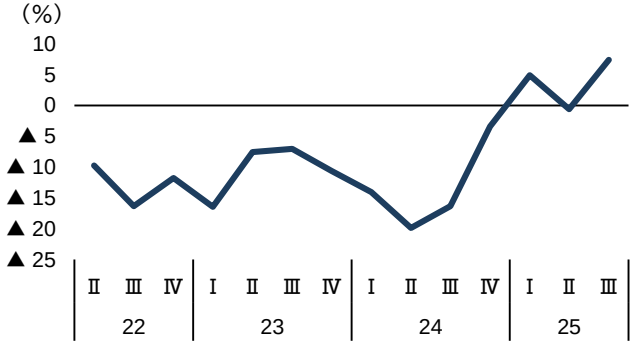
建設機械出荷額

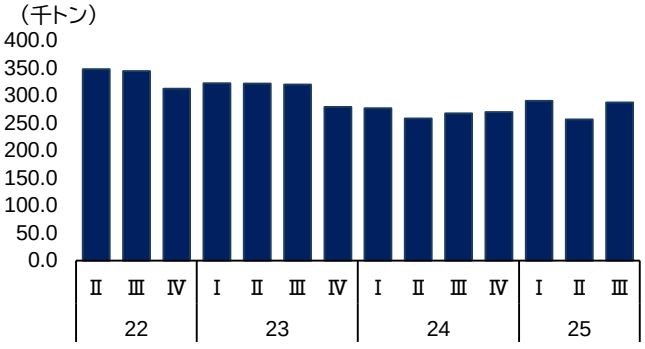


(出所)内閣府、日本建設機械工業会
(注)建設機械出荷額は、日本銀行「企業物価指数」を用いて実質化を行った。

普通鋼鋼材受注

前年比

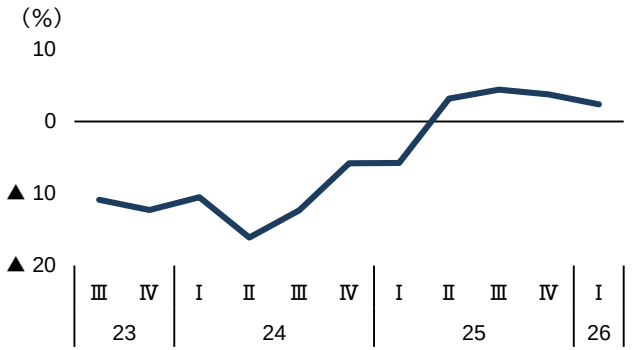


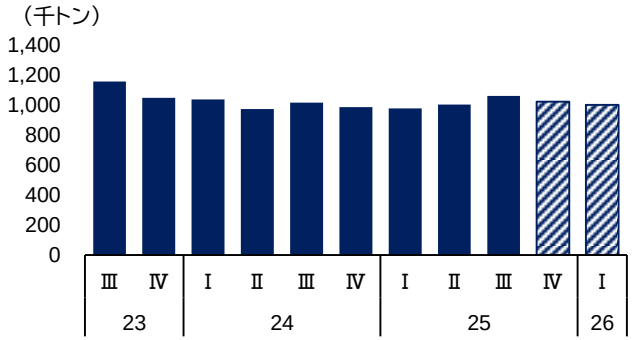


(出所)日本鉄鋼連盟

普通鋼鋼材消費

前年比





(出所)経済産業省

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

電気機械部門

■足元の動向

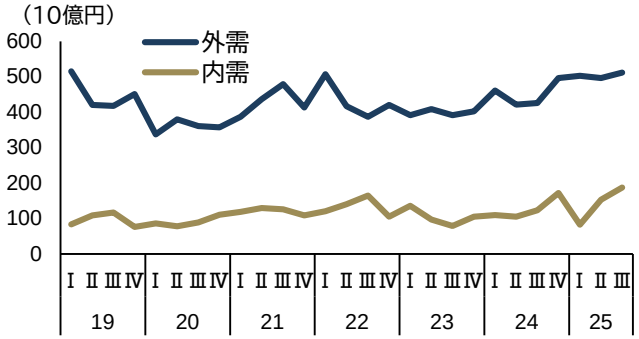
- 電気機械部門は、建設投資が人手不足や資材費高の継続により低調であることから、建設投資に紐づく重電の活動も前年割れで推移している。

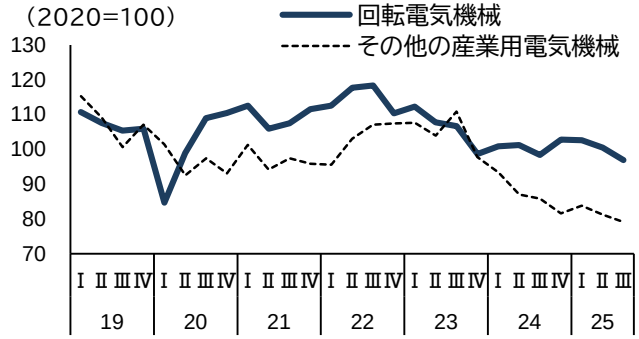
■見通し

- 重電機械は、電力向けの需要は堅調である一方で非住宅向けが低調に推移し、前年を下回る見通し。
- 通信機器は生成AI普及に伴う投資が継続することから底堅く推移する見通し。
- 1Qの鋼材消費量は微減となる見通し。

電気機械関連指標

重電機受注額(季節調整済)

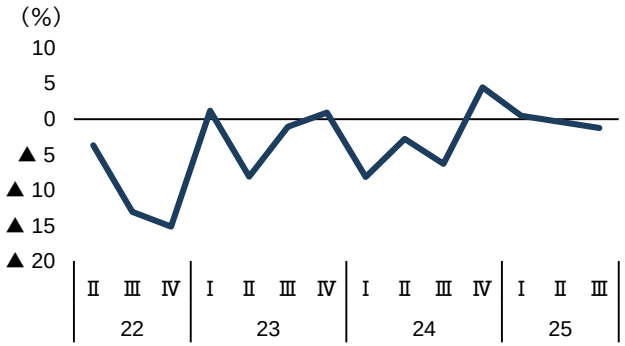


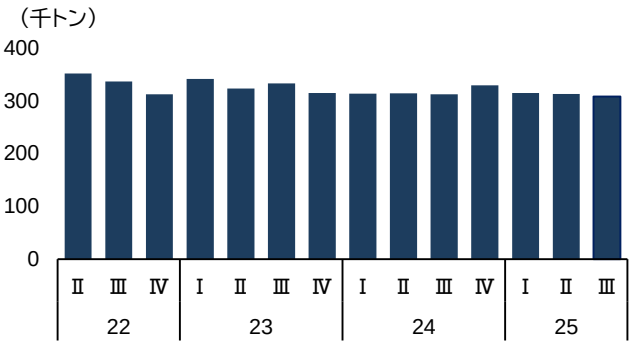


(出所)内閣府、経済産業省
(注)受注額の内需は、合計と外需の差より算出。受注額は事務局にて季節調整を行った。

普通鋼鋼材受注

前年比

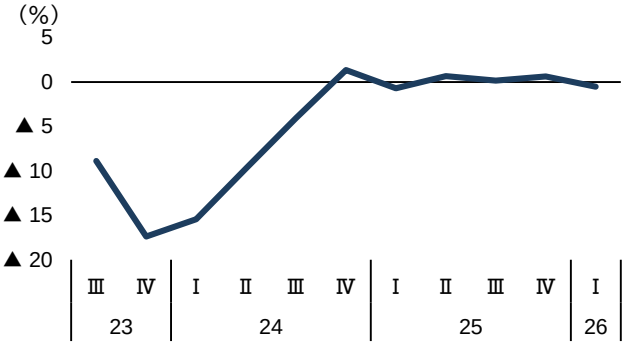


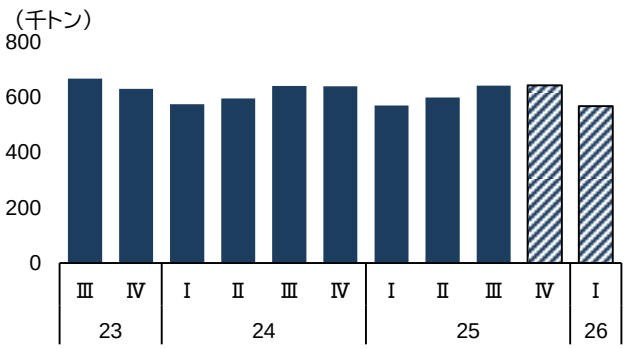


(出所)日本鉄鋼連盟

普通鋼鋼材消費

前年比





(出所)経済産業省

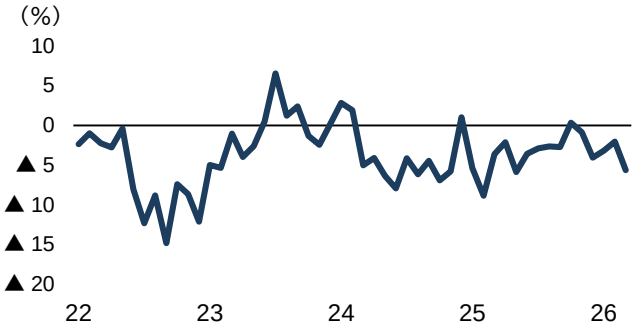
©2026 The Japan Iron and Steel Federation

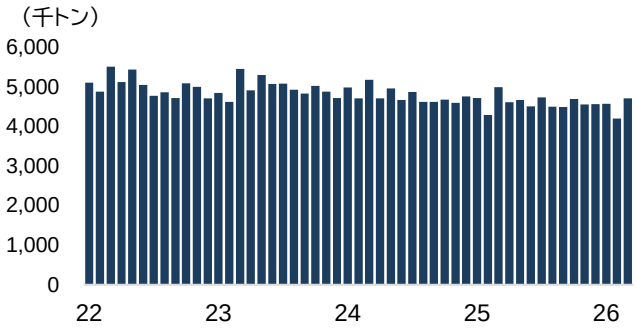
普通鋼需給

- 鉄鋼需要産業は、内外需ともに力強さを欠き、供給(生産・出荷)は弱含み。
  - ✓ 生産: 3月(一次速報)　470.3万トン(前年同月比▲5.7%)
    25年度(一次速報)　5,475.7万トン(前年比▲3.0%)
  - ✓ 出荷: 2月(確報)　427.8万トン(前年同月比▲4.4%)
    4～2月(確報)　4,983.8万トン(前年同期比▲4.0%)
- 普通鋼国内向け在庫量(2月)は、518.3万トン。在庫率は184.9%。

普通鋼鋼材生産

前年比

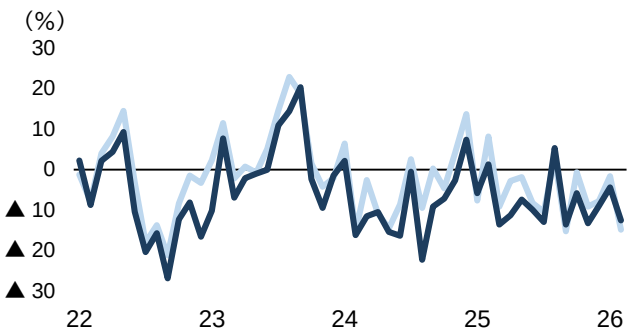


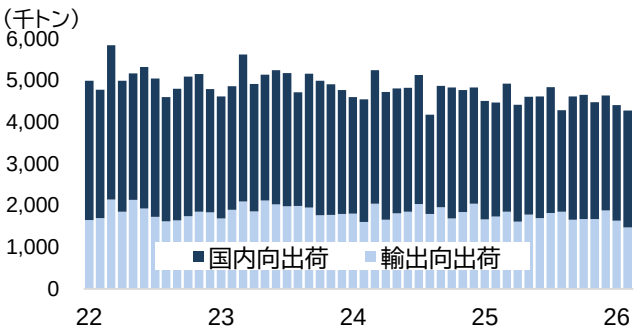


(出所)経済産業省

普通鋼鋼材出荷

前年比

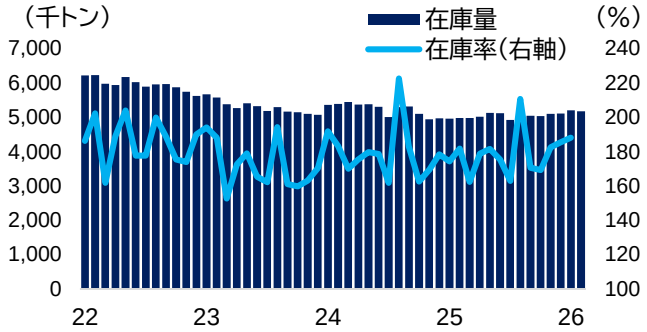




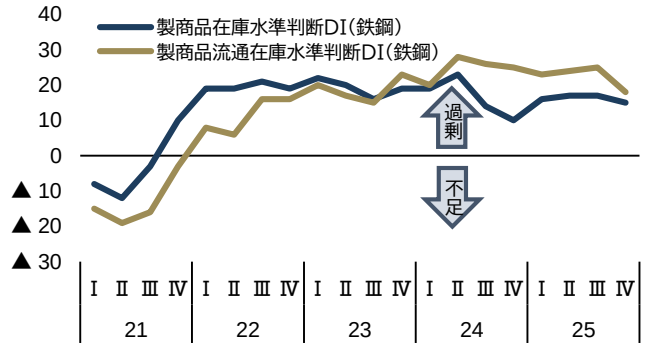
(出所)日本鉄鋼連盟

普通鋼鋼材在庫

普通鋼鋼材国内向け在庫



鉄鋼業在庫判断DI



(出所)日本鉄鋼連盟、日本銀行

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

特殊鋼需給

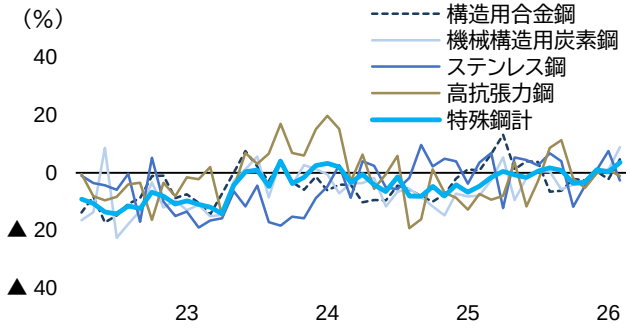
- 内外需とも低調に推移
  内需：自動車部門が低調に推移し、全体でも足元の状況が継続。
  外需：産業機械は建機を中心とした回復が見込まれる。自動車現地生産は日系メーカーの中国でのシェアが低位で推移しており、東南アジアや欧州など海外経済減速により需要は横ばいでの推移を見込む。

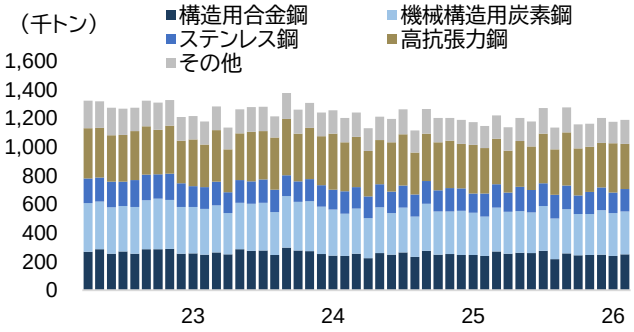
- 2月の生産、出荷は増加。
  - ✓ 生産：2月 119.1万トン(前年同月比+3.6%)
  - ✓ 出荷：2月 117.9万トン(前年同月比+3.4%)

- 2月の在庫は154.8万トン(前月比▲2万トン)。

特殊鋼鋼材生産

前年比

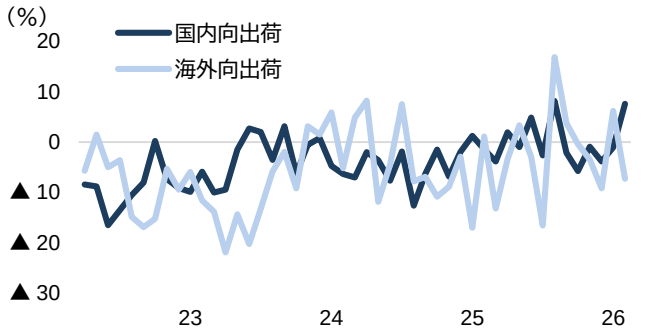


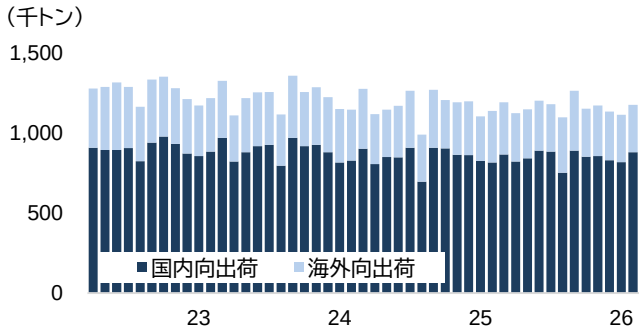


(出所)経済産業省

特殊鋼鋼材出荷

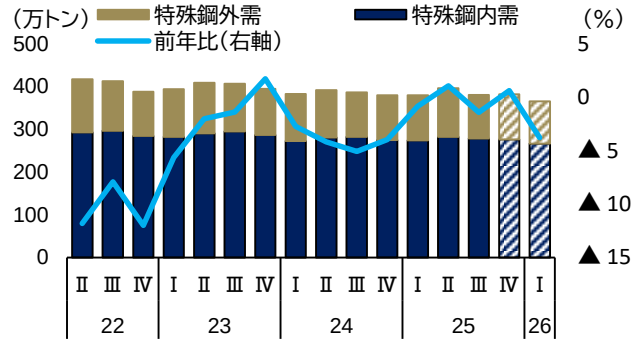
前年比





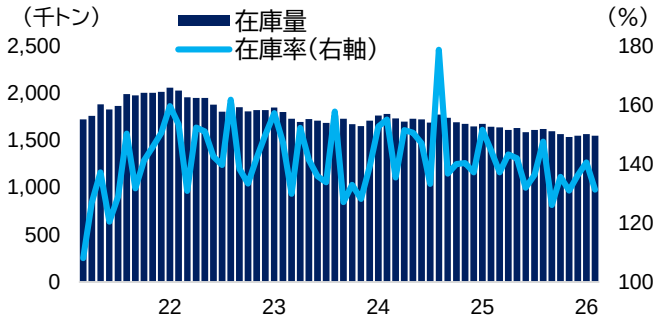
(出所)日本鉄鋼連盟

特殊鋼鋼材需要



(出所)経済産業省

特殊鋼鋼材在庫



(出所)日本鉄鋼連盟、特殊鋼倶楽部

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

海外鉄鋼市場

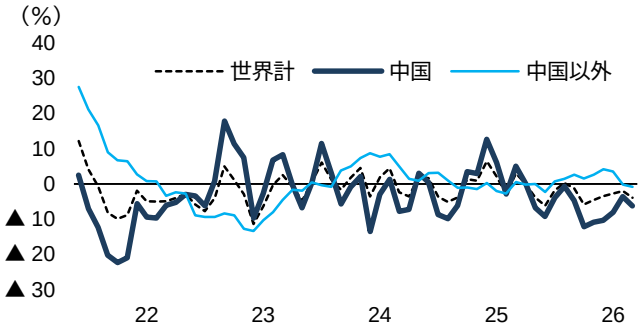
- 国際鉄鋼市場は総じて停滞。中国は内需不振のなか、足元の生産は前年比減少。一方、インドは拡大基調を継続。
  - ✓ 世界の粗鋼生産：3月 1億5,970万トン(前年同月比▲4.3%)
  - ✓ 中国の粗鋼生産：3月 8,704万トン(前年同月比▲6.3%)
    1-3月 2億4,755万トン(前年比▲4.6%)
  - ✓ インドの粗鋼生産：3月 1,530万トン(前年同月比+9.4%)
    1-3月 4,470万トン(前年比+10.8%)

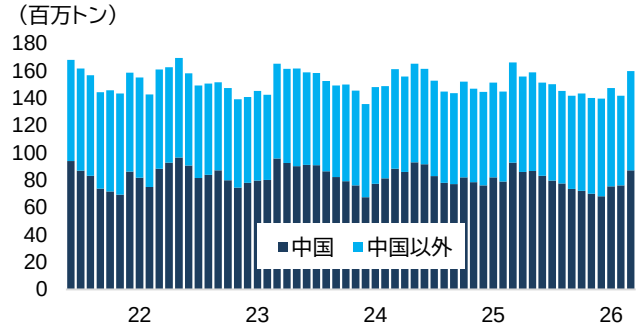
- 中国の鋼材輸出：3月 914万トン(前年同月比▲12.6%)
  1-3月 2,471万トン(前年同期比▲9.9%)

- 中国の輸出が高水準で推移するなか、26年4月時点の新規AD調査開始件数は6件(うち、中国を含むものは2件)。

世界粗鋼生産

前年比

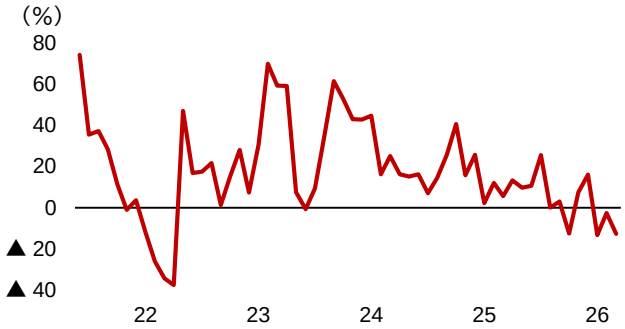


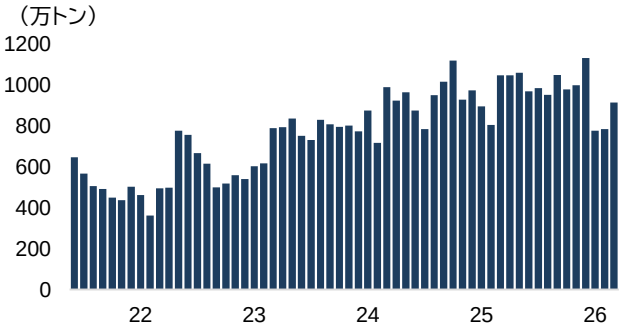


(出所)世界鉄鋼協会(worldsteel)

中国の鋼材輸出

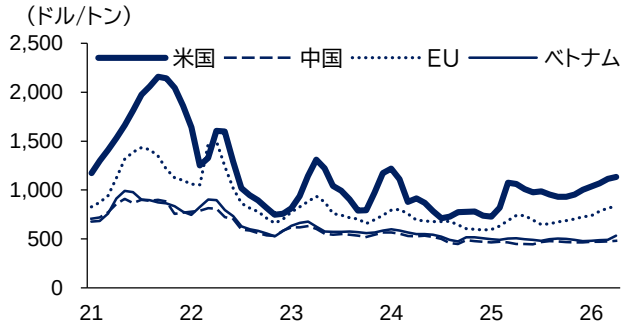
前年比





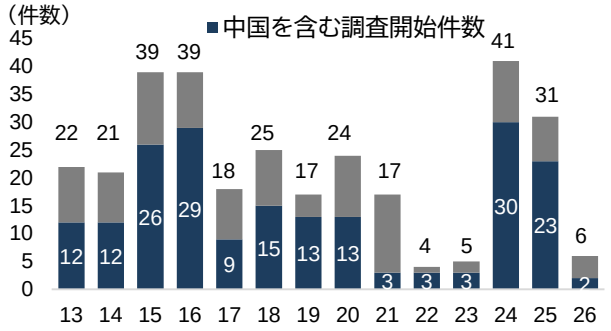
(出所)海関総署

主要国の熱延コイル市況



(出所)Kallanish

鉄鋼製品への新規AD調査開始件数



(出所)日本鉄鋼連盟調べ (注)2026年は4月24日時点、暦年

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

鋼材輸入

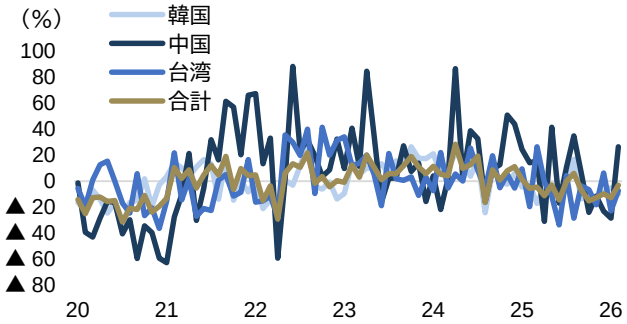
- 足元の鋼材輸入は前年比では減少も、輸入水準・輸入浸透率は依然高位で推移。
  - ✓ 鋼材輸入：2月 38.7万トン(前年同月比▲3.1%)
  - ✓ 供給国別(2月)では、中国は7.8万トン(同+26.2%)と増加も、台湾は6.5万トン(▲7.5%)、韓国は23.5万トン(前年同期比▲10.1%)と減少。
  - ✓ 主要品種では、熱延、亜鉛めっき鋼板で減少も、冷延、ステンレスが増加。依然高水準が継続。

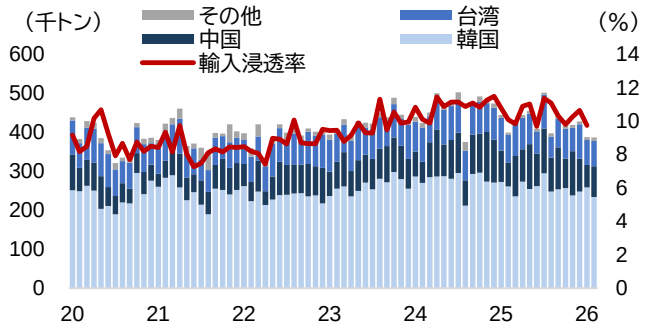
主要品目別 (千トン、前年(同月)比)

	2月	4-2月累計
亜鉛めっき鋼板	80(▲20.9%)	1,118(▲4.3%)
熱延鋼板類	100(▲14.0%)	1,208(▲13.2%)
冷延鋼板類	63(+7.1%)	747(▲11.5%)
ステンレス鋼板	19(+10.2%)	272(▲1.5%)

鋼材輸入(普通鋼＋特殊鋼)

前年比

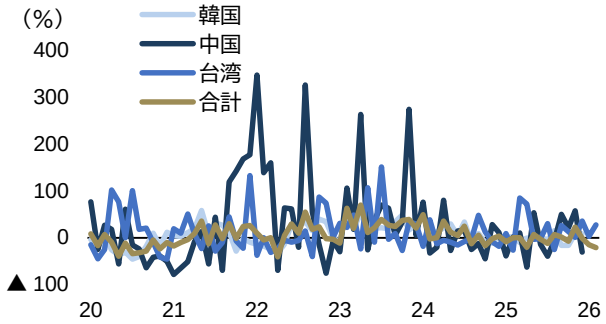


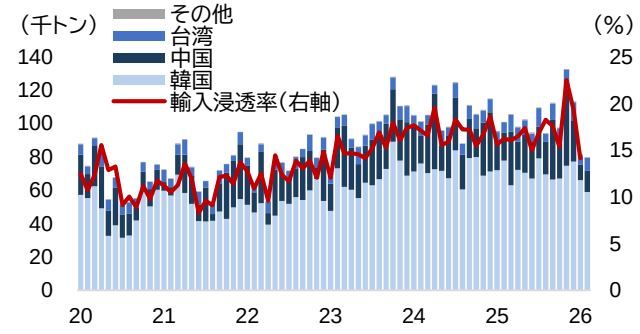


(出所)財務省通関統計
(注)日本鉄鋼連盟にて品目による集計を行っている。
輸入浸透率 ＝ 輸入量/(国内出荷量+輸入量)

亜鉛めっき鋼板輸入

前年比

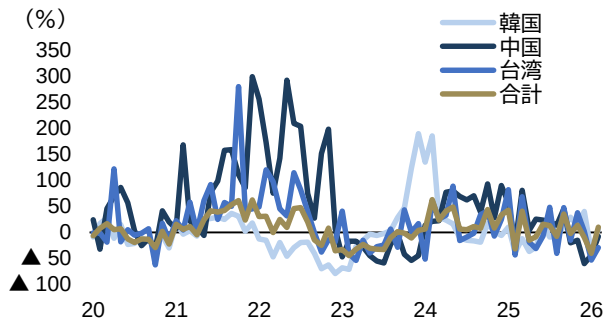


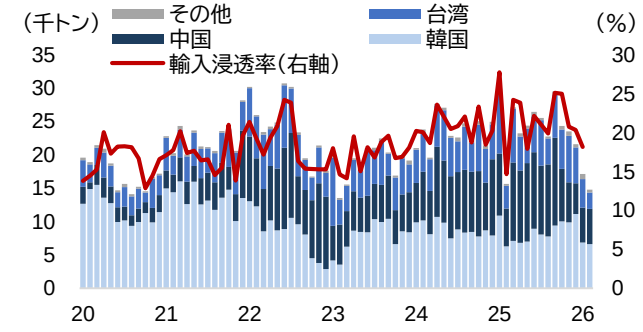


(出所)財務省通関統計
(注)日本鉄鋼連盟にて品目による集計を行っている。
輸入浸透率 ＝ 輸入量/(国内出荷量+輸入量)

ステンレス鋼輸入

前年比





(出所)財務省通関統計
(注)日本鉄鋼連盟にて品目による集計を行っている。
輸入浸透率 ＝ 輸入量/(国内出荷量+輸入量)

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

鉄鋼輸出

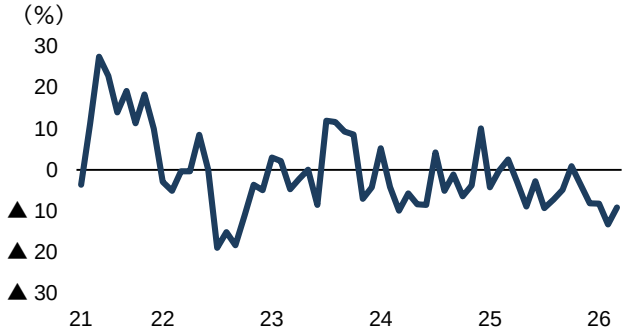
- 輸出環境が厳しさを増すなか、減少基調。
  - ✓ 全鉄鋼輸出：3月(速報)　251.9万トン（前年同月比▲9.1%）
    25年度累計(速報)　2,960万トン（前年同期比▲6.5%）
  - ✓ 向け先：3月(速報)　中国、ASEANで減少
    25年度累計(速報)　韓国、中国、ASEAN、米国で減少。
  - ✓ 品種別：2月（確報）　熱延鋼板、冷延鋼板、厚中板などが減少。

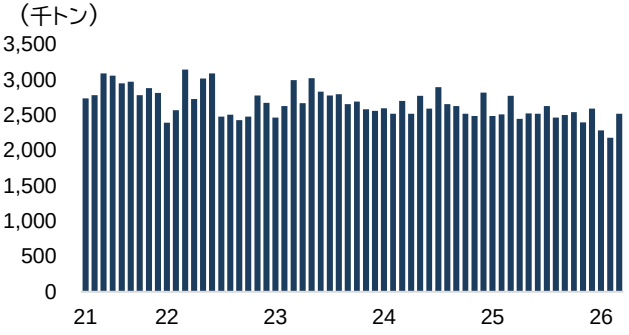
主要品目別　（千トン、前年(同月)比）

	2月	4-2月累計
亜鉛めっき鋼板	168（+11.0%）	1,798（▲4.3%）
熱延鋼板類	783（▲16.3%）	10,175（▲7.2%）
冷延鋼板類	111（▲8.8%）	1,268（▲6.9%）
厚中板	207（▲7.8%）	2,347（▲10.5%）
鋼塊・半製品	161（▲19.8%）	2,165（▲24.5%）

全鉄鋼輸出

前年比

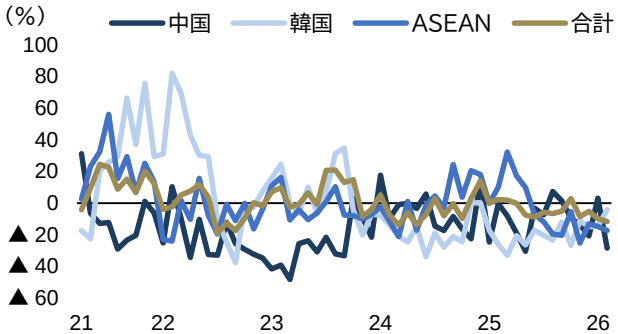


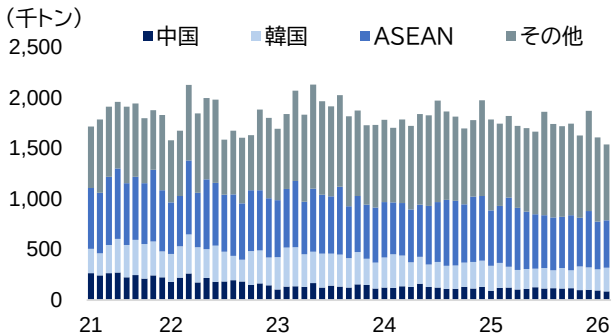


(出所)財務省通関統計
(注)日本鉄鋼連盟にて品目による集計を行っている。

普通鋼鋼材輸出(向け先別)

前年比

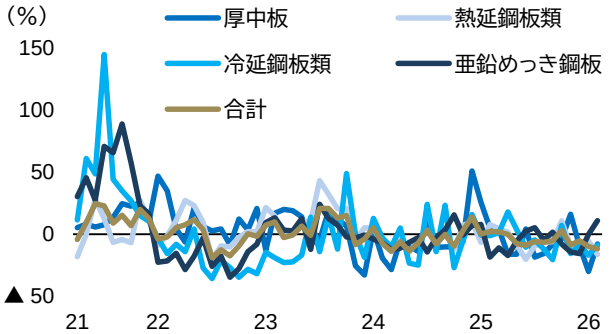


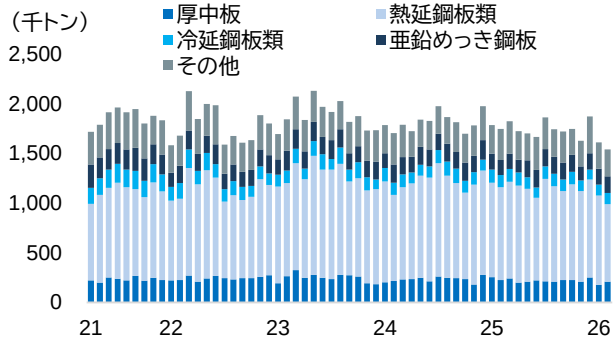


(出所)財務省通関統計
(注)日本鉄鋼連盟にて品目による集計を行っている。

普通鋼鋼材輸出(品種別)

前年比





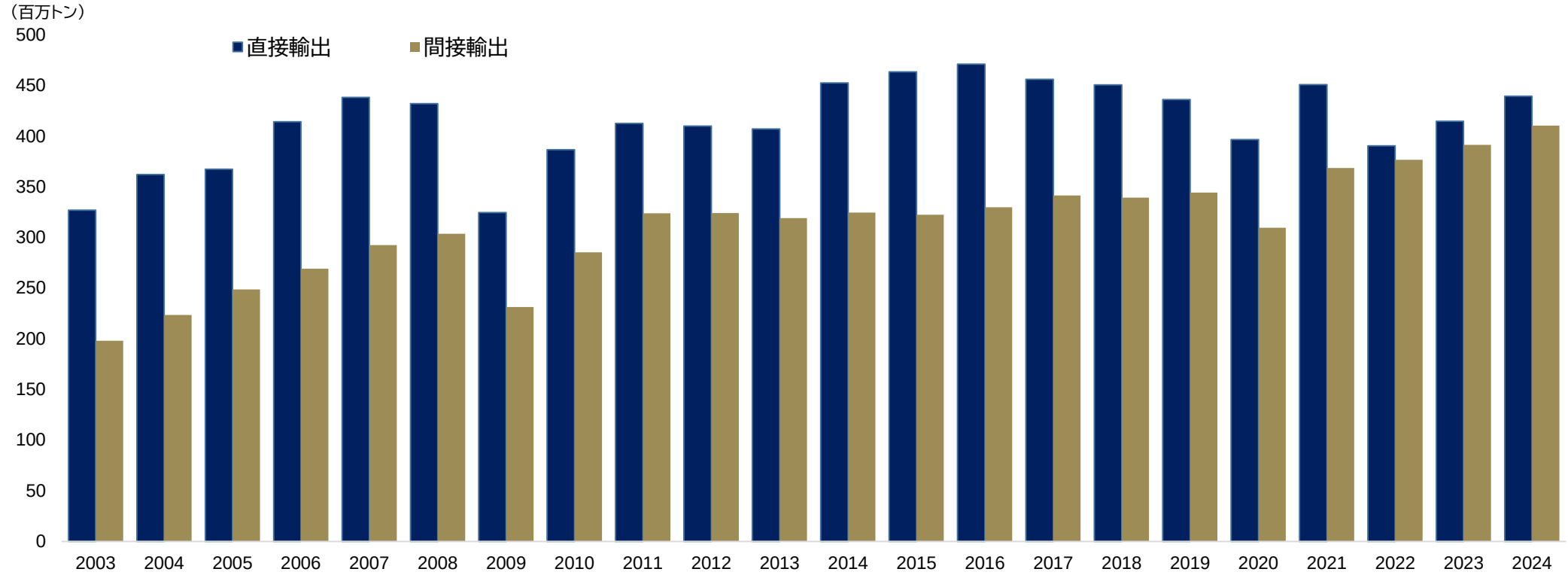
(出所)財務省通関統計
(注)日本鉄鋼連盟にて品目による集計を行っている。

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

鋼材需要をどこで捉えるか

- 鋼材は中間財であるため、最終需要の把握が難しい。
- 鉄鋼業では、いくつか需要指標を用いて鋼材需要を把握している（次ページの「参考」を参照）。
  - ①　鋼材見掛消費（ASU, Apparent Steel Use）
  - ②　鋼材実消費（RSU, Real Steel Use）
- これらの指標は国内で消費されたとみなされる鋼材の量を示すものであり、鋼材を含む製品の形での輸入（間接輸入）は需要に計上されない。
- 実際、世界の間接貿易は増加傾向にあり、その存在感は年々高まっている。
- つまり、間接貿易の拡大により、ASU・RSUだけでは鋼材の「最終消費地ベースの需要」を十分に捉えることは難しくなっている。
- そこで本稿では、間接貿易に焦点を当て、最終消費地の観点から鋼材需要を分析する。

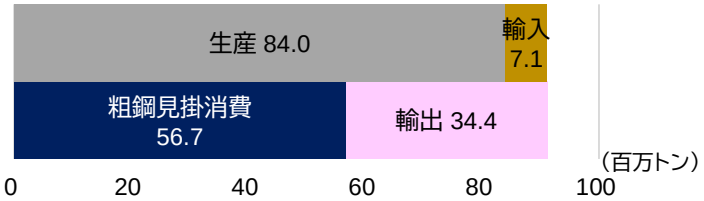
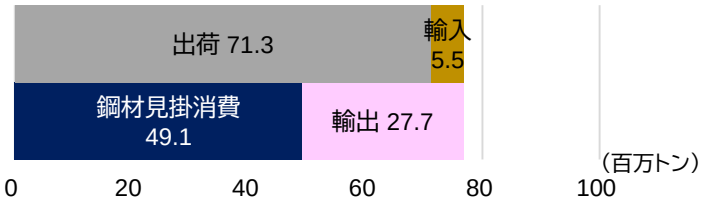
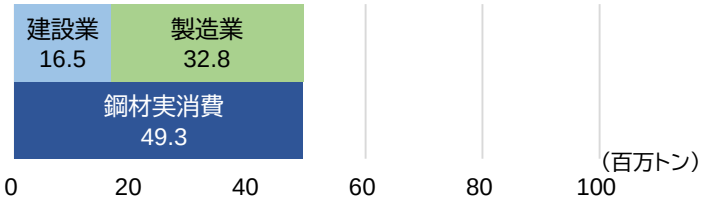
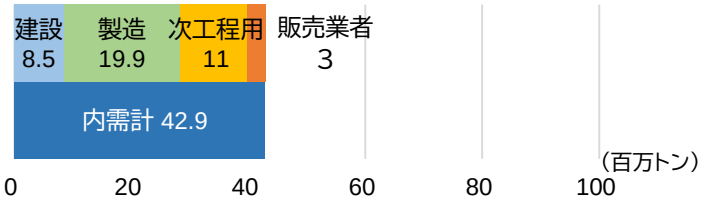
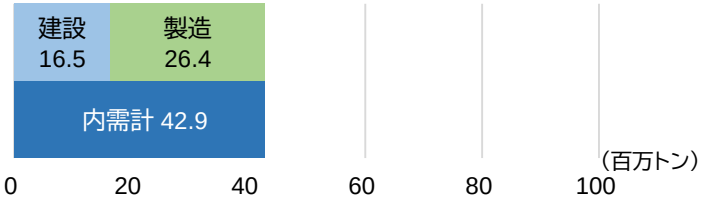
世界の鋼材の直接・間接輸出の推移



（出所）worldsteel

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

（参考）我が国での鉄鋼内需の指標

		グラフ（2024年度）	内容
見掛消費	粗鋼見掛消費 Apparent Steel Use (crude steel equivalent)		【計算式】粗鋼生産＋粗鋼輸入－粗鋼輸出 鋼材ではなく、粗鋼に置き換えた場合の需要の指標。 （注）粗鋼輸出入の数値は、鋼材輸出入の数値に換算係数を乗じて算出。 ➡ 粗鋼と鋼材の差は「歩留り」などによるもの。
	鋼材見掛消費 Apparent Steel Use (finished steel)		【計算式】出荷（もしくは生産）＋鋼材輸入－鋼材輸出 供給側の統計から算出可能な需要の指標。 簡易的に算出できる需要の指標としてよく使用される。
実消費	鋼材実消費 Real Steel Use		【計算式】各部門の活動水準 × 鋼材消費原単位 ➡ 各部門で算出後、積み上げ （注）鋼材見掛消費との違いは、「ユーザー・特約店在庫増減」（仮需）を含むかどうか。鋼材見掛消費は仮需を含み、実消費は仮需を含まない。
用途別受注統計	最終用途分解なし （報告ベース）		【算出方法】鉄鋼メーカーへの注文をもとに、品種別・用途別・地域別に、鉄連にて集計したもの。 （注1）日本の鉄鋼メーカーが受けた注文であるため、輸入材は含まない。 （注2）用途に「販売業者向け」があるが、販売業者から先の需要家は不明。 （注3）特殊鋼の「次工程向け」の先の需要家は不明。
	最終用途分解あり （事務局による推計）		普通鋼・特殊鋼の「販売業者向け」や特殊鋼の「次工程向け」を最終用途に分解したもの。 分解にあたっては、所定の比率を用いている。

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

鋼材の間接貿易とは

① 鋼材直接貿易：鋼材として輸出入されるもの

② 鋼材間接貿易：鋼材を用いた製品が他国と取引される際に、その製品に含まれる鋼材を「間接的に」輸出入したとみなす概念

（例）自動車部門による鋼材間接輸出

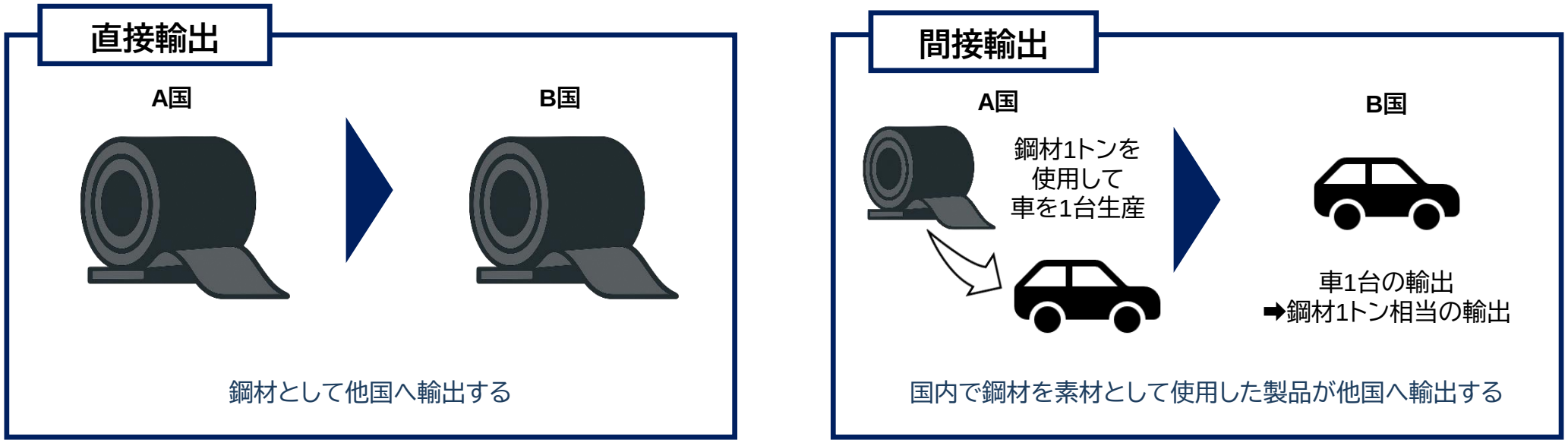
A国からB国の自動車を輸出した場合

→輸出された「自動車」の生産に使用された鋼材もB国に輸出した（＝B国で最終需要された）とみなす。

＜間接輸出量の推計イメージ＞

鋼材の間接輸出量 ＝ 自動車輸出台数×自動車1台の生産に必要となる鋼材量（鋼材原単位）

直接・間接輸出のイメージ

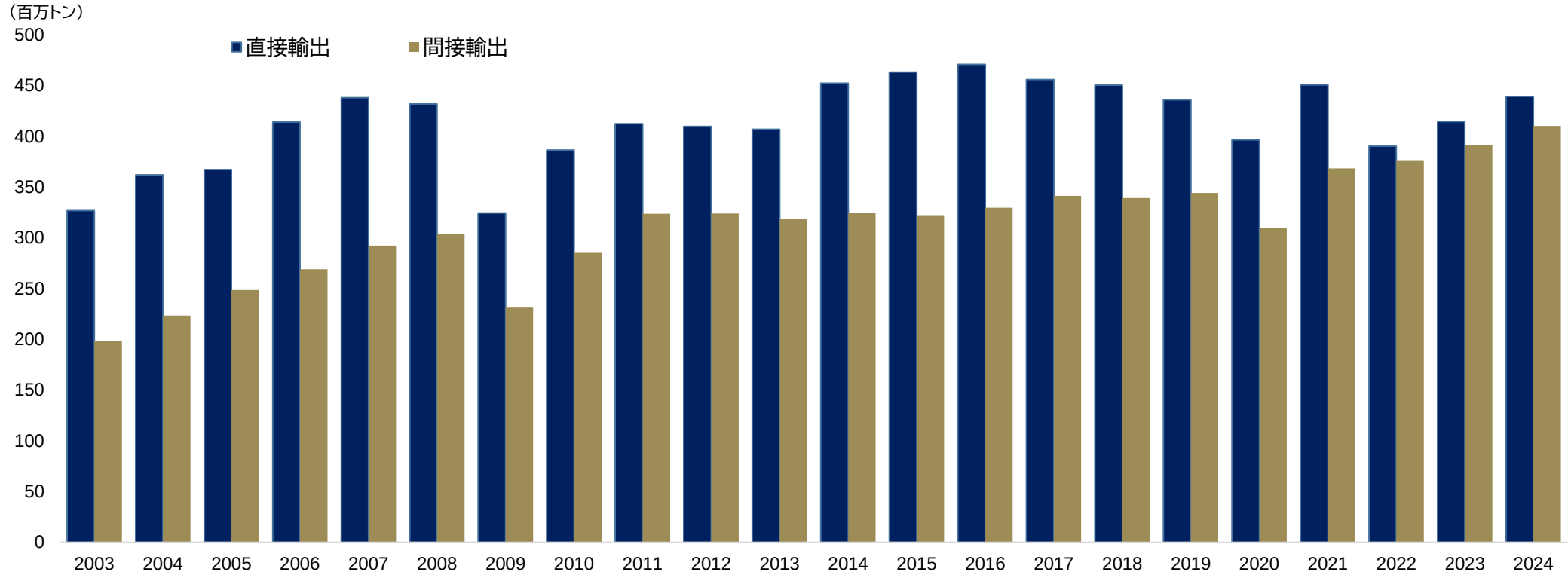


©2026 The Japan Iron and Steel Federation

直接貿易と間接貿易の推移

- 鋼材直接輸出と間接輸出の推移を比較すると、直接貿易は増減を繰り返し推移している一方、間接輸出は総じて増加傾向が見られる。
- 直接輸出は、2016年をピークに2024年まで年率0.9%減で減少基調で推移し4億4,000万トンとなった。
- 一方、間接輸出は、同期間で年率2.8%増で推移し、4億1,000万トンとなった。

世界の鋼材の直接・間接輸出の推移（再掲）



（出所）worldsteel

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

世界の財輸出

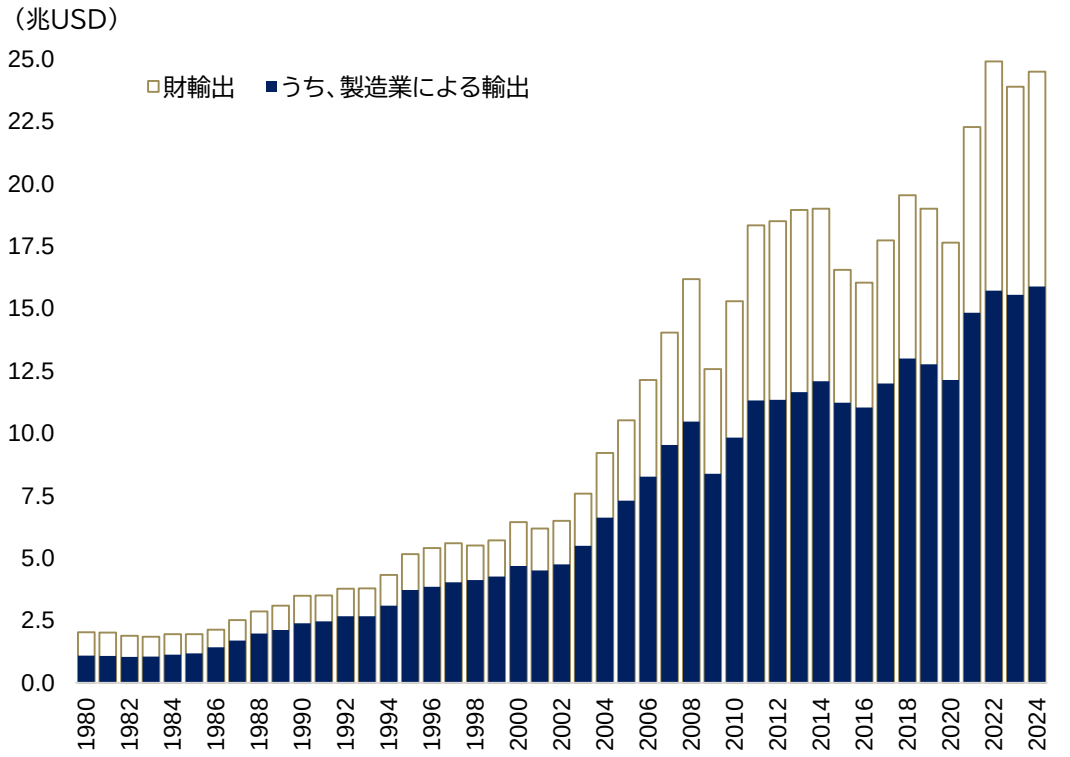
■ 世界の財輸出額の推移

- 世界の財輸出は増加基調で推移している。1980年～1999年は年率5.6%増、2000年～2019年は5.9%増、2020年からは8.5%増で増加している。
- また、財輸出の内訳である製造業は、同様に7.4%増、5.4%増、7.0%増で推移している。

■ 輸送機械輸出の推移

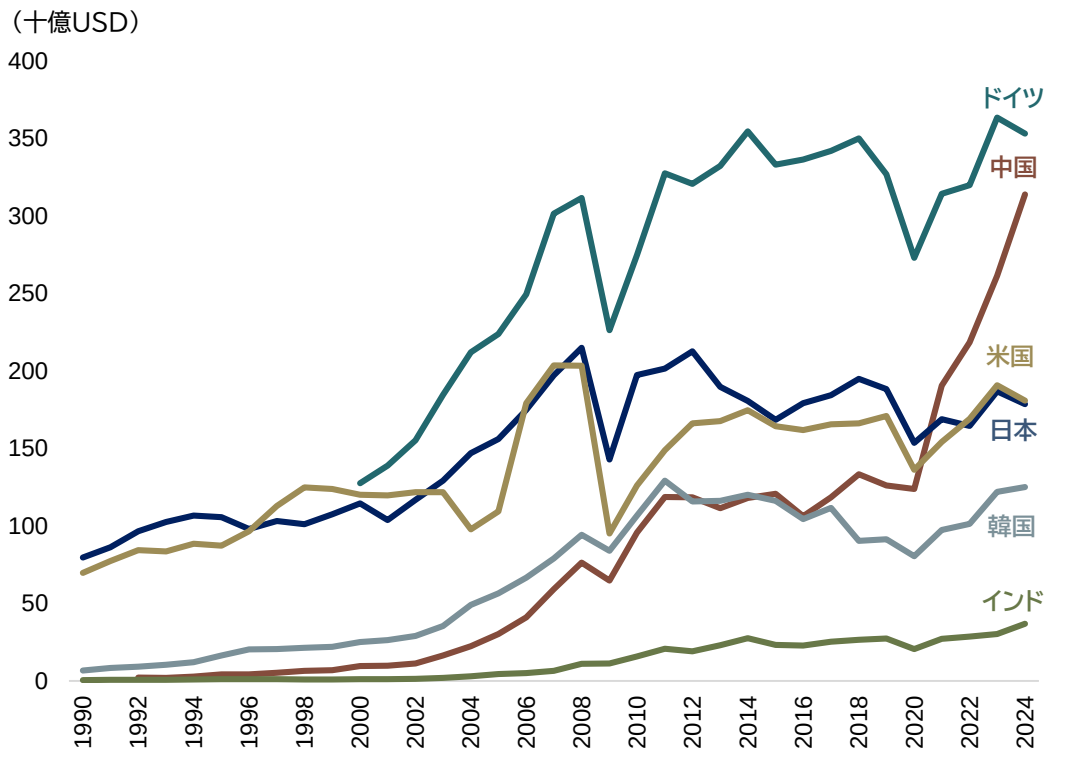
- 輸出機械の輸出を主要国でみると、1990年、2000年代は、ドイツ、米国、日本が上位であったが、2000年以降中国が急速に増加し、さらに2020年からはドイツに次ぐ高水準の輸出額となっている。

世界の財輸出の推移



（出所）World Trade Organization

主要国の輸送機械輸出の推移

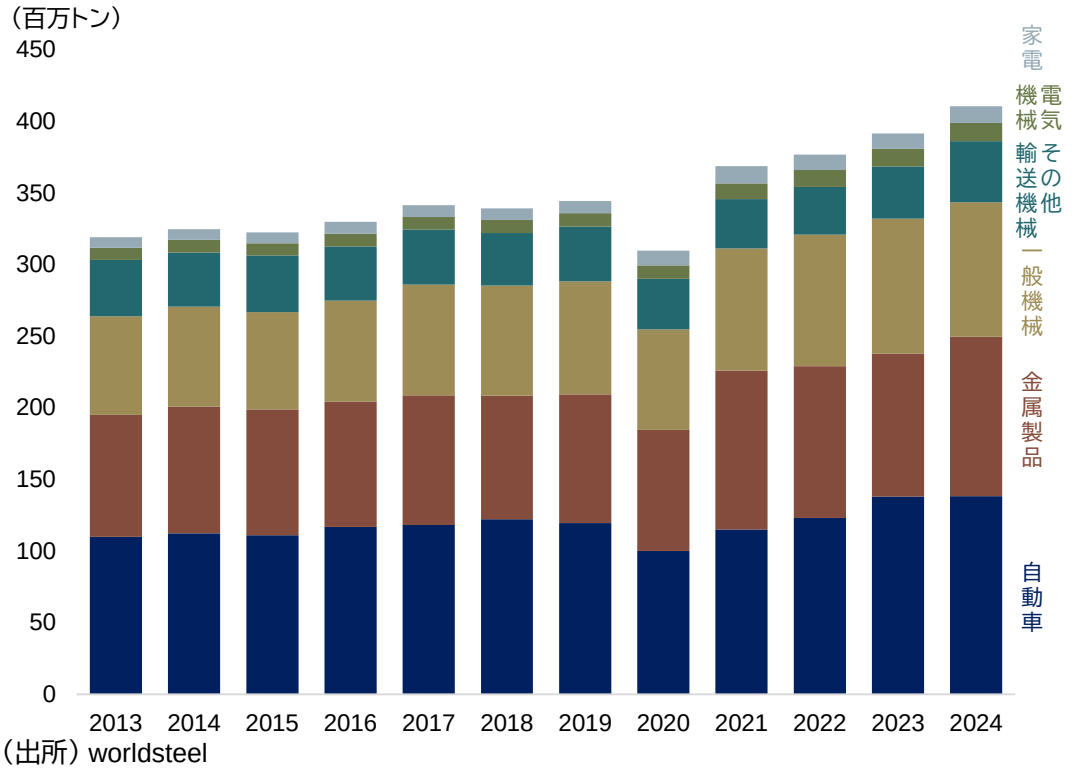


©2026 The Japan Iron and Steel Federation

部門別鋼材間接輸出

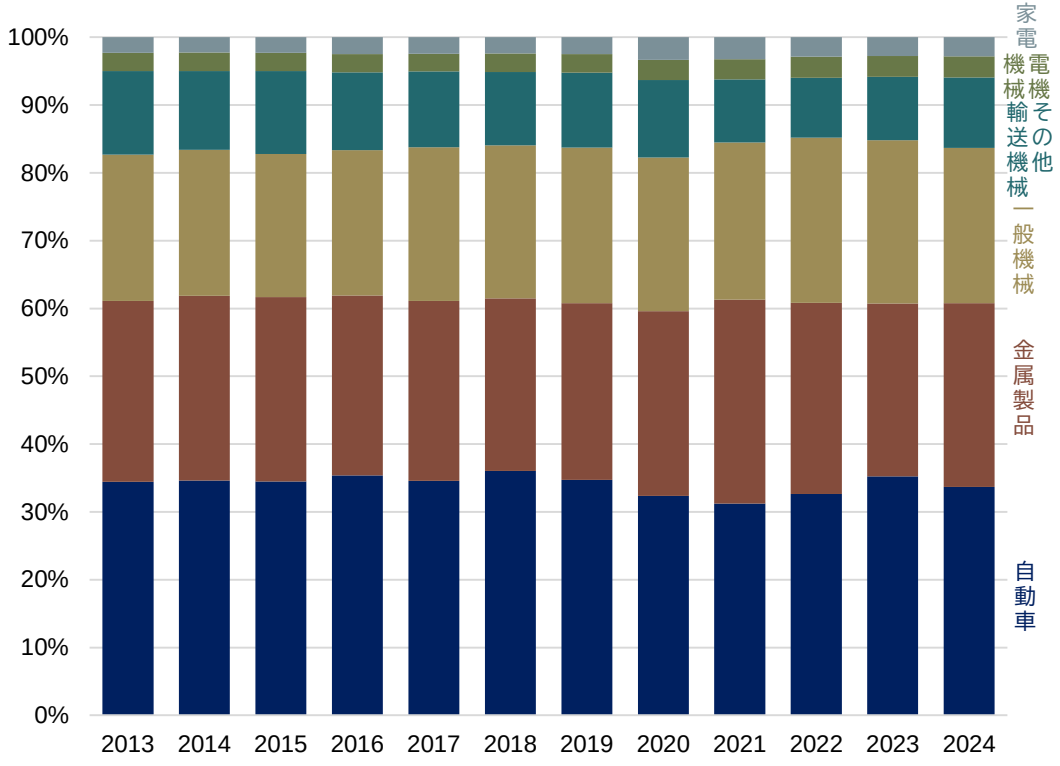
- worldsteelでは鋼材間接貿易を「金属製品」、「一般機械」、「電気機械」、「家電」、「自動車」、「その他輸送機械」の6部門に分解している。
- このうち、最も鋼材間接輸出が多いのは自動車部門であり、全体の3割以上を占めている。
- 自動車部門に続き、金属製品（3割弱）、一般機械（2割強）の割合が高い。
- 構成比は2013年から2024年にかけて大きく変動することなく安定している。

部門別間接輸出の推移



（出所）worldsteel

部門別間接輸出の構成比



©2026 The Japan Iron and Steel Federation

部門別鋼材間接輸出／金属製品

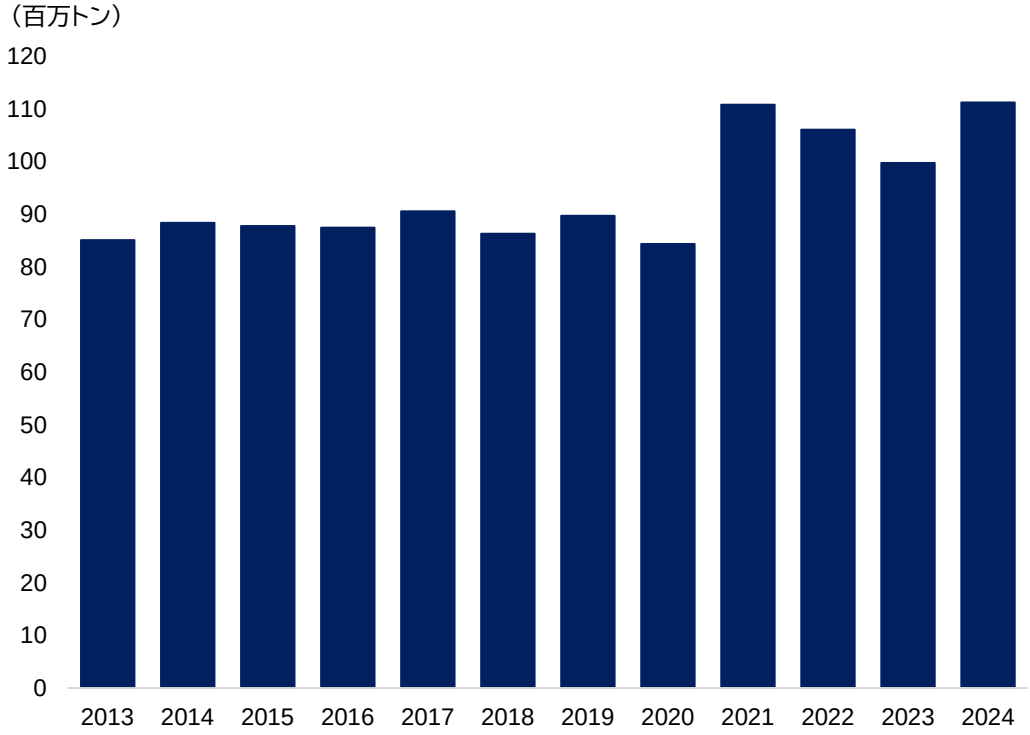
■ 金属製品による鋼材間接輸出の推移

- 間接輸出量は2013年から2020年まで8,000万～9,000万トンの間で推移していたが、2020年から2021年にかけて急増した。その後、減少が続くが、2024年には再び増加に転じた。

■ 上位5ヵ国の傾向

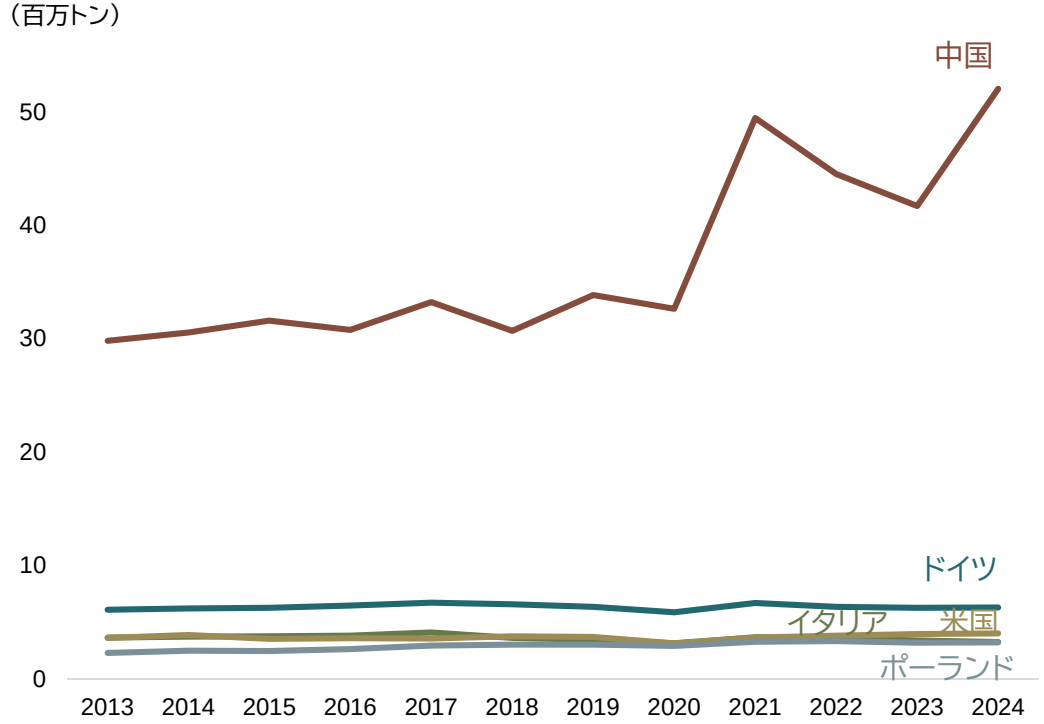
- 金属製品による鋼材間接輸出の上位5ヵ国は、中国、ドイツ、米国、イタリア、ポーランドである。
- 特に中国では、2位のドイツの8倍以上の数量である（2024年）。中国は2020年から2024年にかけて、年率12.4%増で増加した。

金属製品による間接輸出の推移



（出所）worldsteel

金属製品による間接輸出　上位5ヵ国の推移



©2026 The Japan Iron and Steel Federation

部門別鋼材間接輸出／一般機械

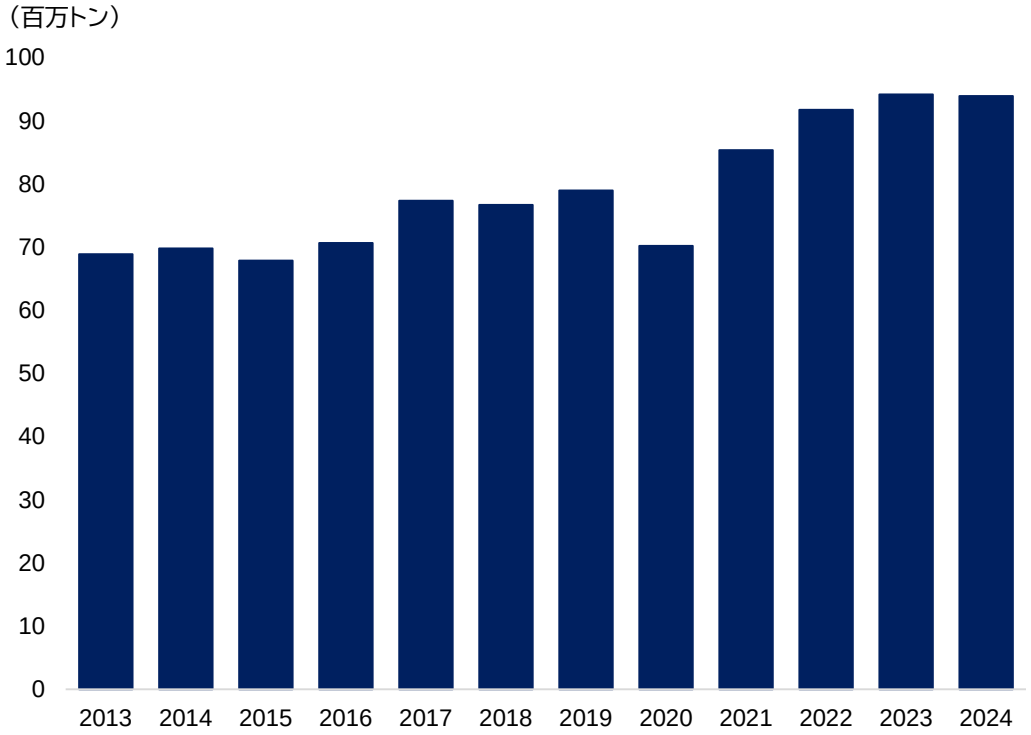
■ 一般機械による鋼材間接輸出の推移

- 間接輸出は増加傾向で推移している。
- 2020年には一時的に落ち込んだが、2013年から2024年にかけて年率2.9%で増加し、2024年には9,400万トンとなった。

■ 上位5ヵ国の傾向

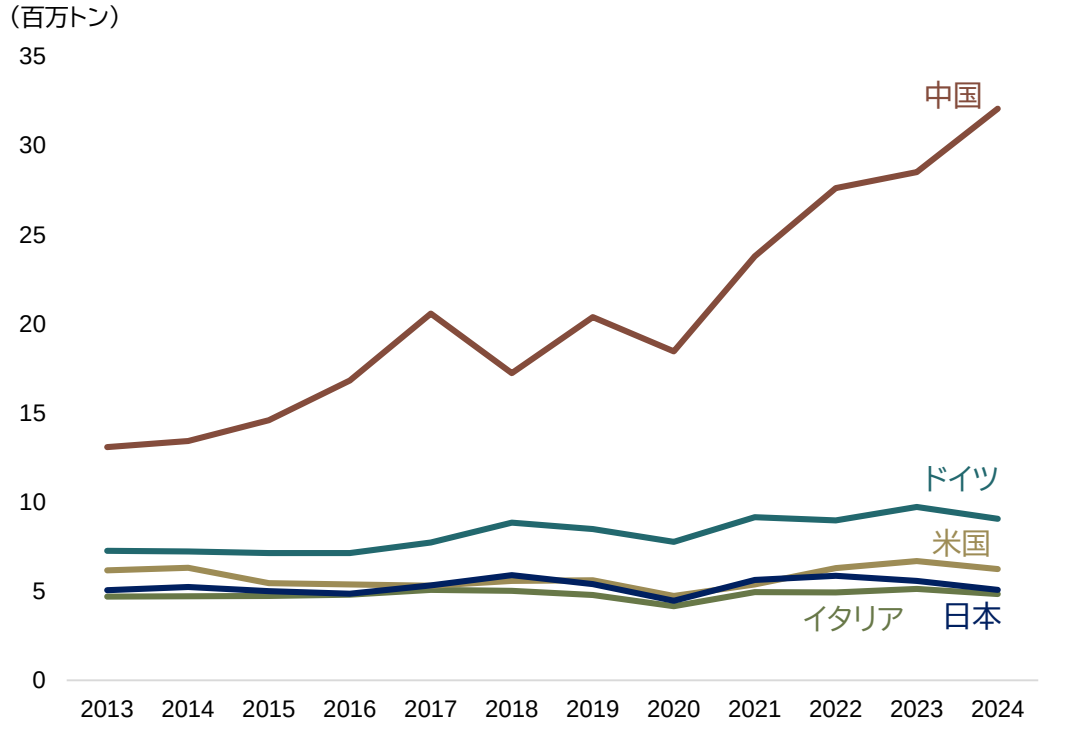
- 一般機械による鋼材間接輸出の上位5ヵ国は、中国、ドイツ、米国、日本、イタリアである。
- 2013年から2024年の年平均成長率をみると、米国（0.3%増）、イタリア（0.1%増）、日本（0.02%）が横ばい圏で推移するなか、中国は年率8%を超える高成長を示した。

一般機械部門による間接輸出の推移



（出所）worldsteel

一般機械部門による間接輸出　上位5ヵ国の推移



©2026 The Japan Iron and Steel Federation

部門別鋼材間接輸出／電気機械

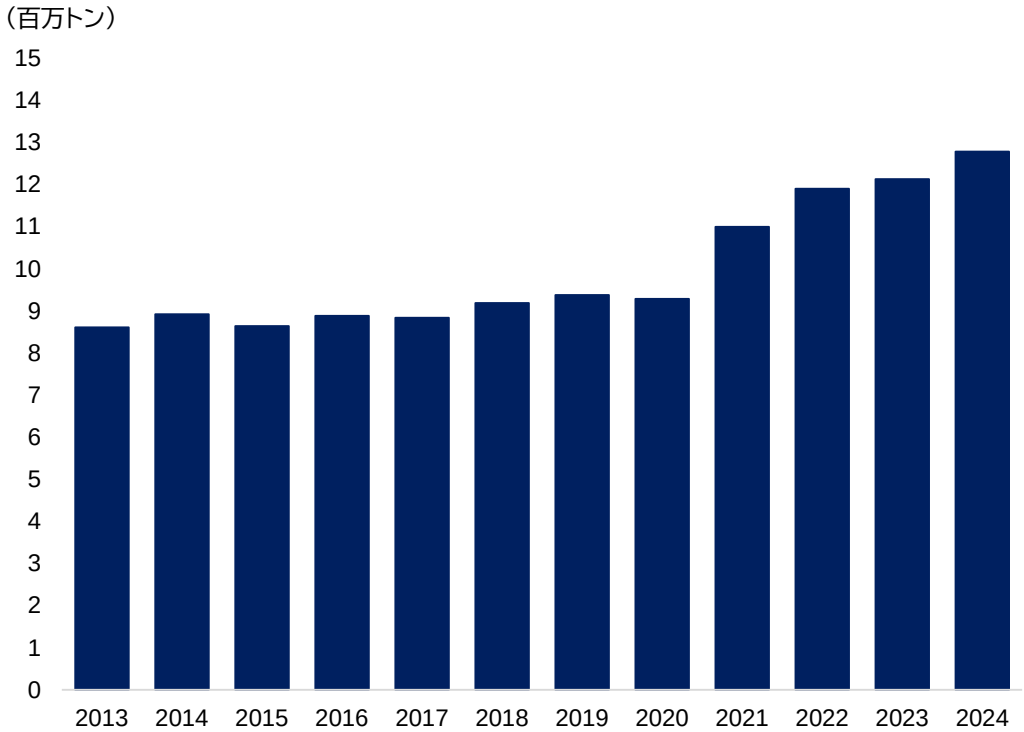
■ 電気機械による鋼材間接輸出の推移

- 間接輸出量は2013年から2020年まで横ばい傾向で推移していたが、2020年から2021年にかけて18.4%増加した。その後も増加基調を辿る。

■ 上位5ヵ国の傾向

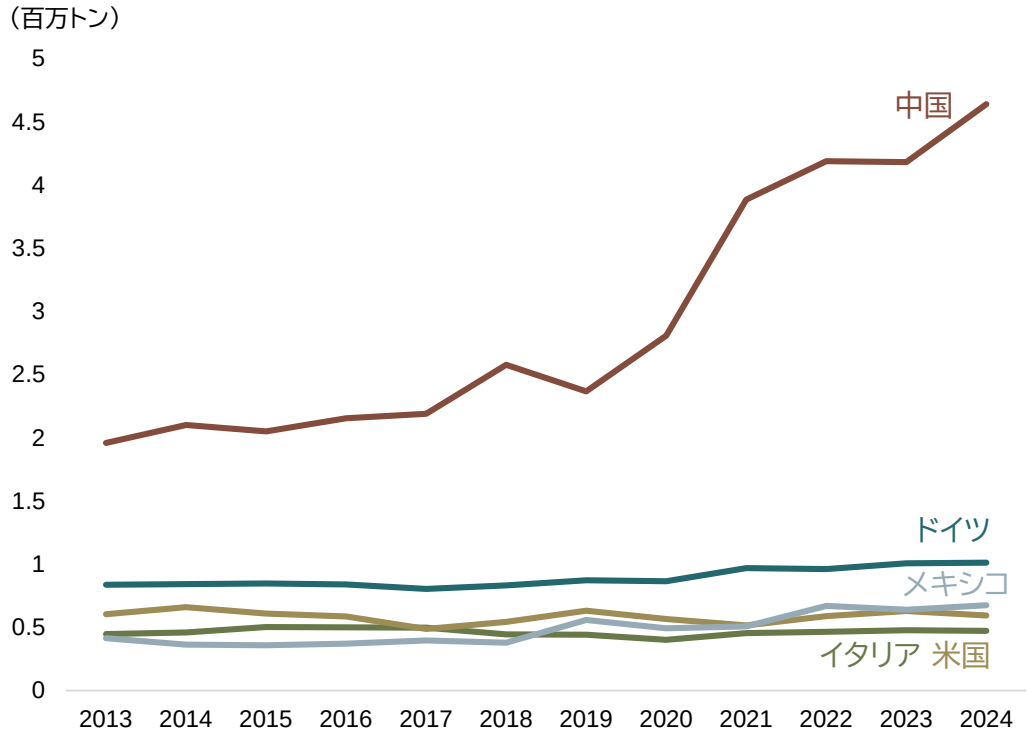
- 電気機械による鋼材間接輸出の上位5ヵ国は、中国、ドイツ、イタリア、米国、メキシコである。
- 中国の間接輸出量は2021年以降大きく増加している。2013年から2024年の年平均成長率は8.1%増であるが、2020年から2024年は年率13.4%増と2桁で増加している。

電子機器部門による間接輸出の推移



（出所）worldsteel

電子機器部門による間接輸出　上位5ヵ国の推移



©2026 The Japan Iron and Steel Federation

部門別鋼材間接輸出／家電

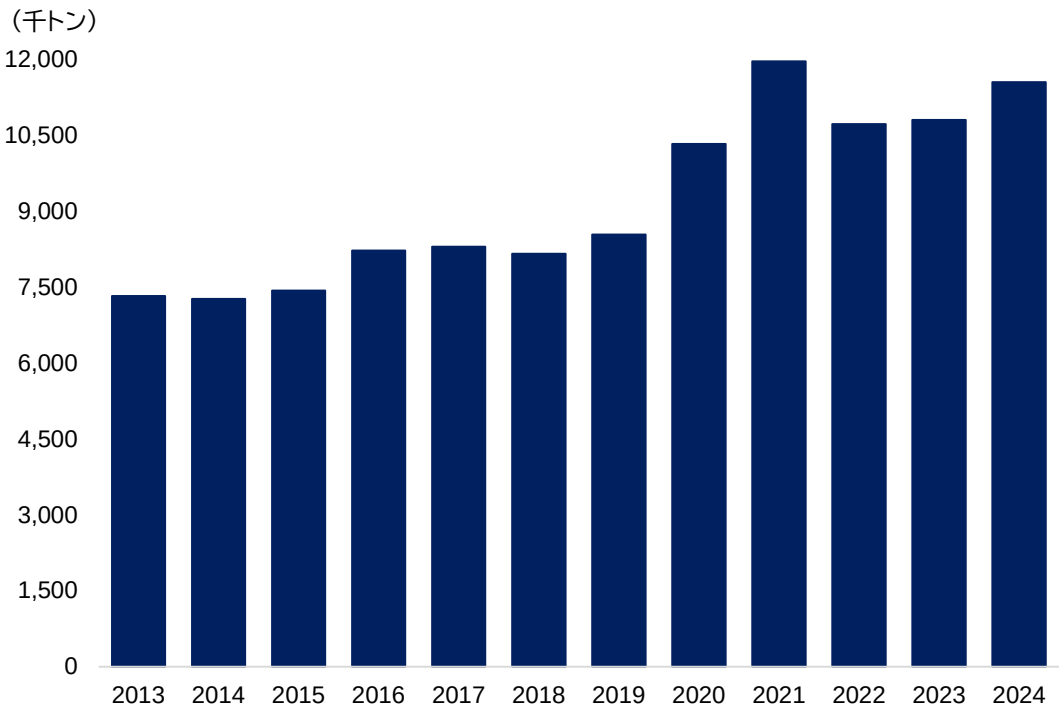
■ 家電による鋼材間接輸出の推移

- 家電は最も間接輸出量が小さい部門である。
- 家電の鋼材間接輸出量は2021年にピーク（1,200万トン）に達し、その後減少、2024年に1,150万トンと21年に次ぐ高水準となった。

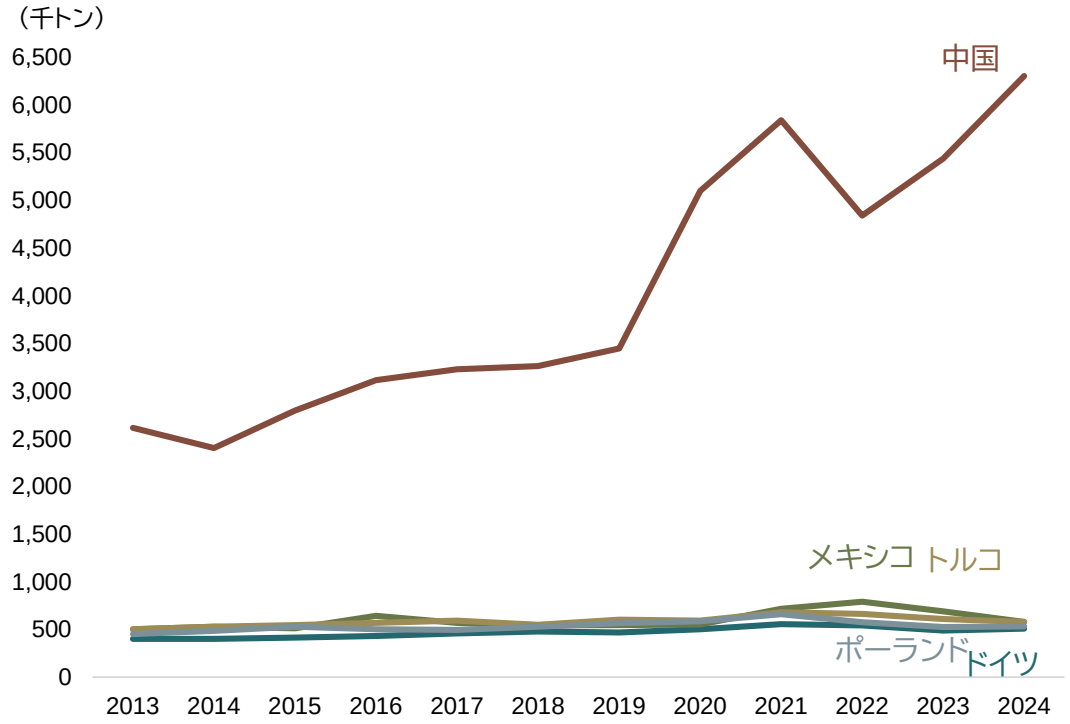
■ 上位5ヵ国の傾向

- 家電による鋼材間接輸出の上位5ヵ国は、中国、トルコ、メキシコ、ポーランド、ドイツである。
- 2013年から2024年において、中国が年率8.3%増と顕著な伸びを示す一方、その他4ヵ国では1%～2%前半の底堅い伸びを示した。

家電部門による間接輸出の推移



家電部門による間接輸出　上位5ヵ国の推移



（出所）worldsteel

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

部門別鋼材間接輸出／自動車

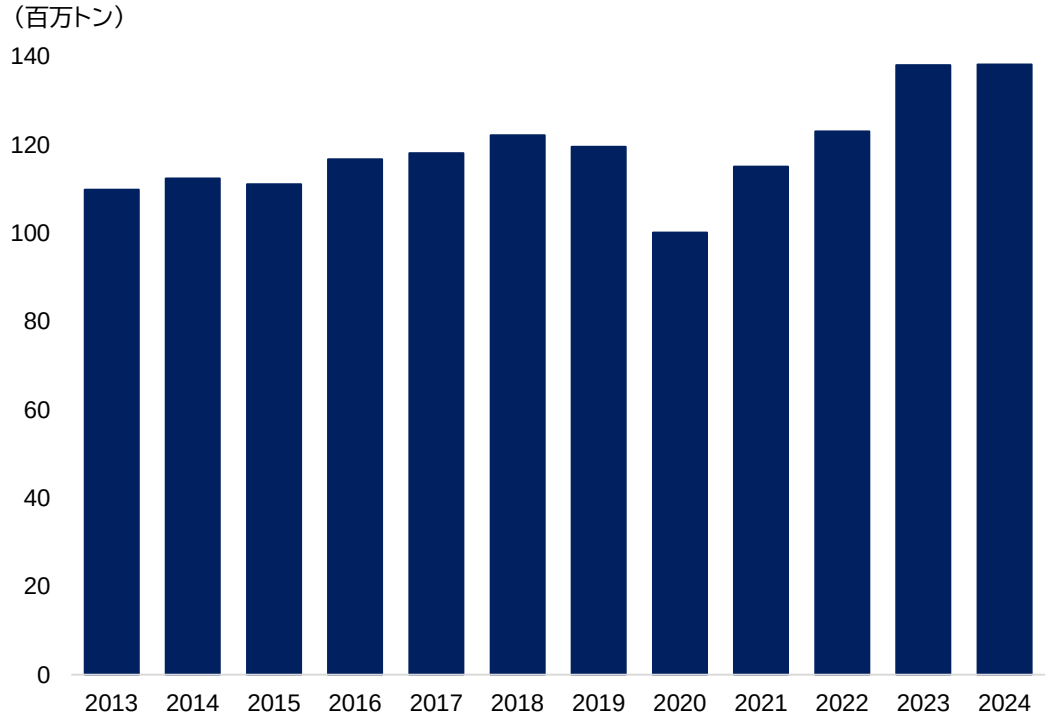
■ 自動車による鋼材間接輸出の推移

- 間接輸出量が最大である自動車部門では、2020年の感染症やその後の部品供給問題を背景に2020年・2021年に限定的な数量となったが、総じてみれば増加基調で推移している。
- 2013年から2024年の年平均成長率は2.1%増と底堅く増加している。

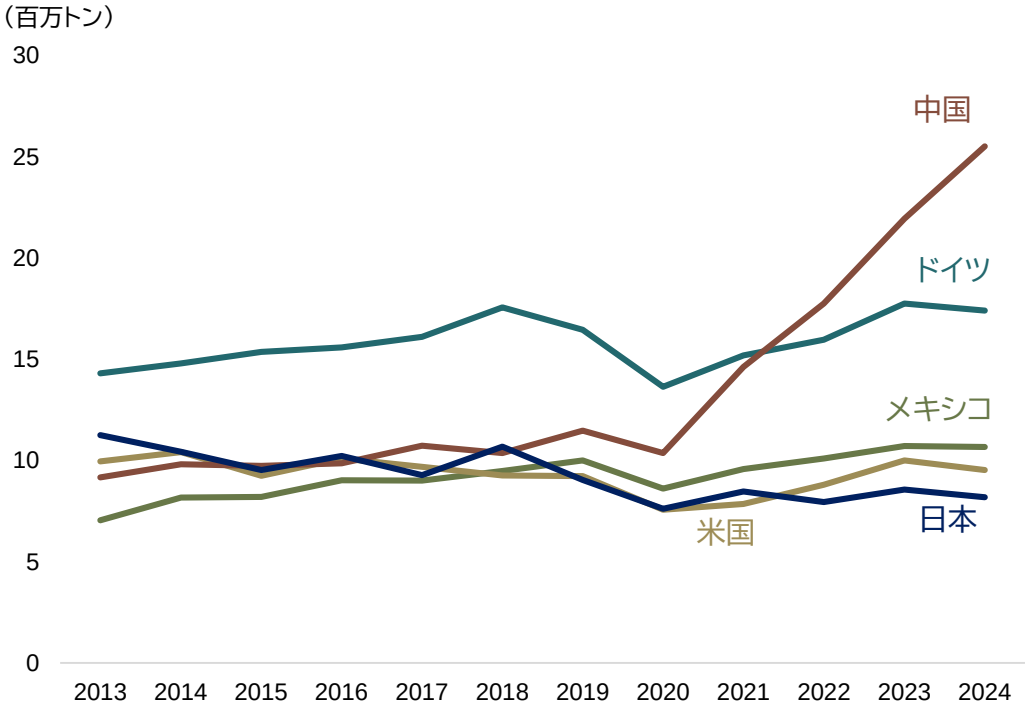
■ 上位5ヵ国の傾向

- 自動車による鋼材間接輸出の上位5ヵ国は、中国、ドイツ、メキシコ、米国、日本である。
- 2020年以降、中国による間接輸出が急速に増加しており、2020年から2024年における年平均成長率は25.2%増である。

自動車部門による間接輸出の推移



自動車部門による間接輸出　上位5ヵ国の推移



（出所）worldsteel

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

部門別鋼材間接輸出／その他輸送機械

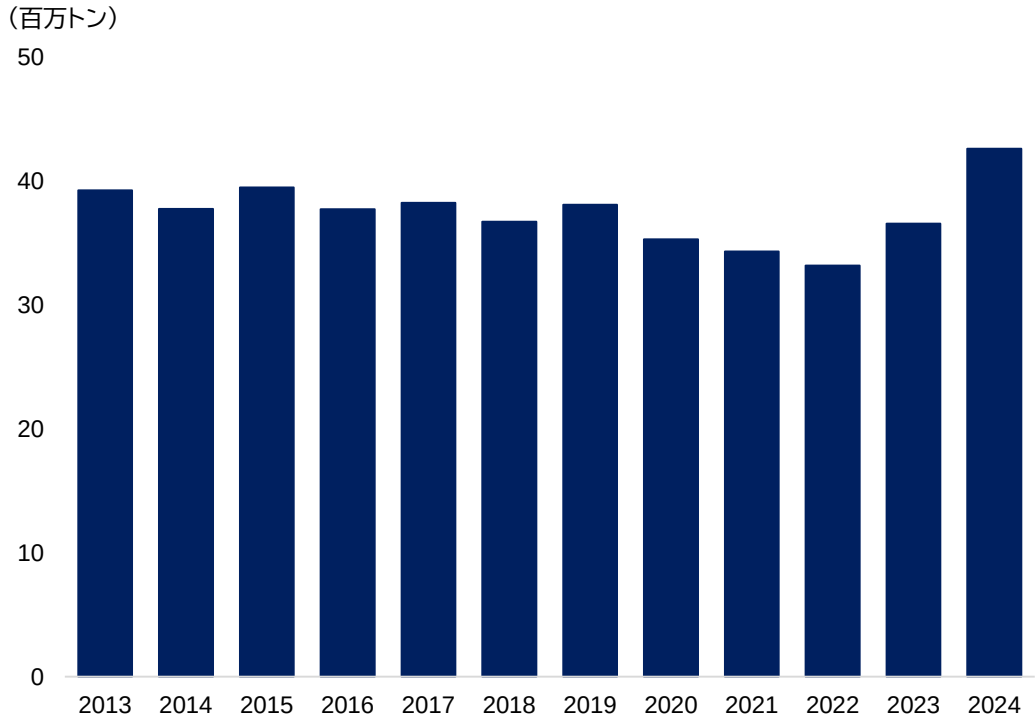
■ その他輸送機械による鋼材間接輸出の推移

- その他輸送機械部門は主に造船や鉄道などを対象とする。
- その他輸送機械による間接輸出は2013年から2022年まで緩やかに減少していたが、2023年以降増加がみられる。

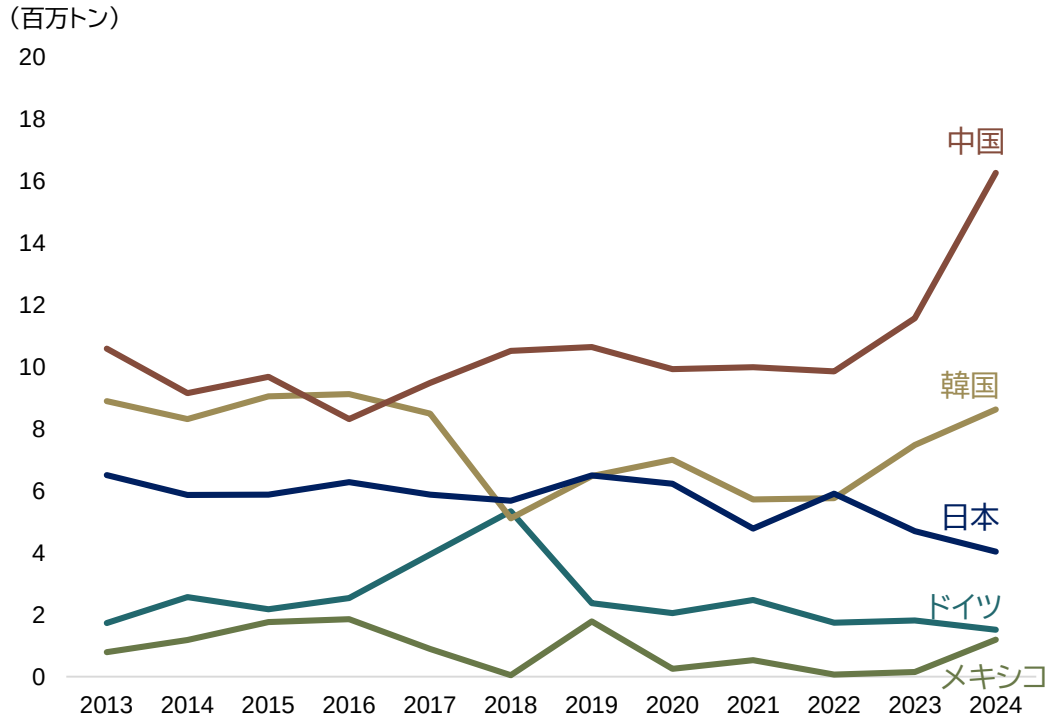
■ 上位5ヵ国の傾向

- その他輸送機械による鋼材間接輸出の上位5ヵ国は、中国、韓国、日本、ドイツ、メキシコである。
- 特に、造船業でシェアの高い中国・韓国が上位を占める。しかし、韓国が年率（2013-2024）0.3%減とマイナス基調である一方、中国は年率4.0%増と増加している。

その他輸送機械による間接輸出の推移



その他輸送機械による間接輸出　上位5ヵ国の推移



（出所）worldsteel

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

間接輸出の国別構成

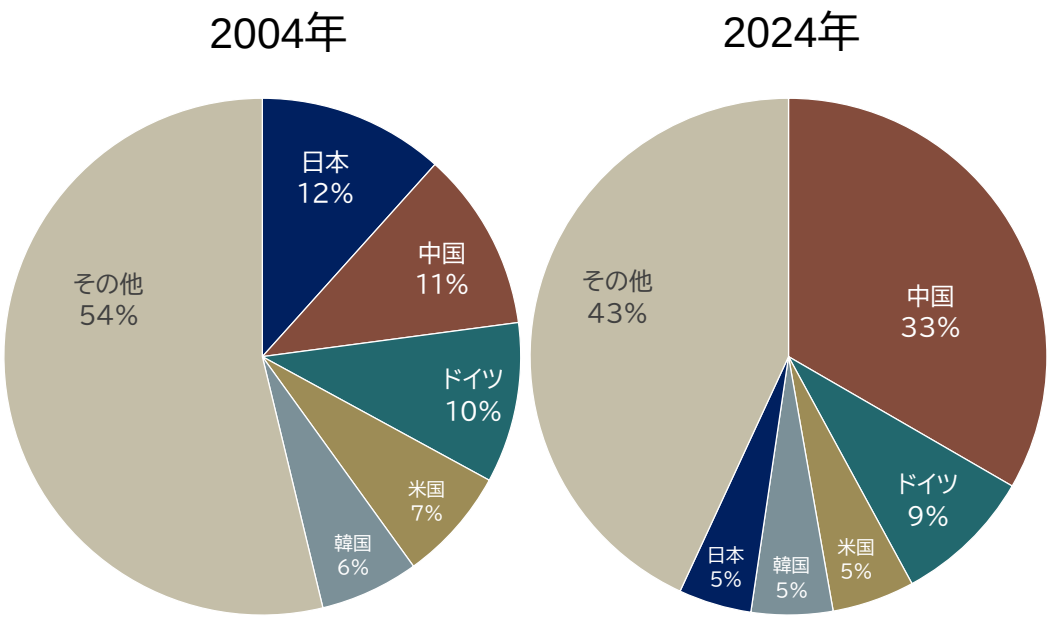
■ 2024年の間接輸出上位国

- 各部門において中国の間接輸出が世界1位であることを確認した。
- 中国の間接輸出は世界の3割以上を占める。これは、2位～4位の国を合計した値より大きい値である。

■ 2004年・2014年との比較

- 2004年以降約20年間、上位5ヵ国の顔ぶれは変わっていない。しかし、日本は1位から5位になるなど、立ち位置の変化がみえる。
- 2014年と2024年を比較すると、中国では10年間で年平均成長率が7%台と高成長を示したが、韓国・日本はマイナスとなった。

間接輸出の構成比



間接輸出上位5ヵ国の推移

	2004年		2014年			2024年		
順	国	構成比	国	構成比	CAGR (05-14)	国	構成比	CAGR (15-24)
1	日本	11.6%	中国	20.8%	8.6%	中国	33.3%	7.7%
2	中国	11.2%	ドイツ	9.9%	2.9%	ドイツ	8.7%	1.2%
3	ドイツ	10.0%	日本	7.1%	-1.8%	米国	5.2%	0.7%
4	米国	7.1%	米国	6.9%	-0.6%	韓国	5.1%	-0.9%
5	韓国	6.2%	韓国	6.9%	4.5%	日本	4.6%	-1.7%

（出所）worldsteel

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

間接輸入の国別構成

■ 2024年の間接輸入上位国

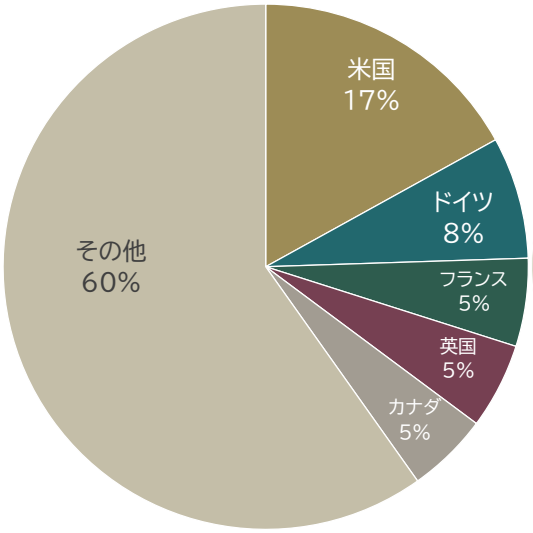
- 米国は最も間接輸入が大きく、次いでドイツ、フランス、英国、カナダが続く。
- 上位5ヵ国合計で世界の間接輸入の4割弱を占める。

■ 2004年・2014年との比較

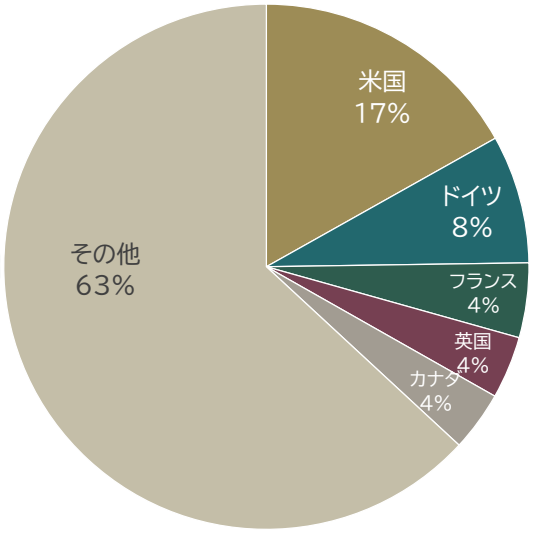
- 2004年から2024年を通して、米国とドイツは間接輸入の上位2ヵ国である。
- 鉄鋼の間接輸入をみるとEU加盟国が上位を占めているが、これはEU域内貿易の影響が大きいものと考えられる。（現在のデータでは、本来重視すべきEU域外との取引を区分できない）

間接輸入の構成比

2004年



2024年



間接輸入上位5ヵ国の推移

	2004年		2014年			2024年		
順	国	構成比	国	構成比	CAGR (04-14)	国	構成比	CAGR (14-24)
1	米国	17.0%	米国	13.8%	-1.3%	米国	16.9%	3.4%
2	ドイツ	7.5%	ドイツ	7.7%	3.0%	ドイツ	7.9%	2.4%
3	フランス	5.4%	中国	4.3%	7.9%	フランス	4.6%	2.9%
4	英国	5.3%	カナダ	4.3%	0.9%	英国	3.8%	1.1%
5	カナダ	5.0%	英国	4.0%	0.0%	カナダ	3.7%	1.1%

（出所）worldsteel

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

我が国の間接貿易

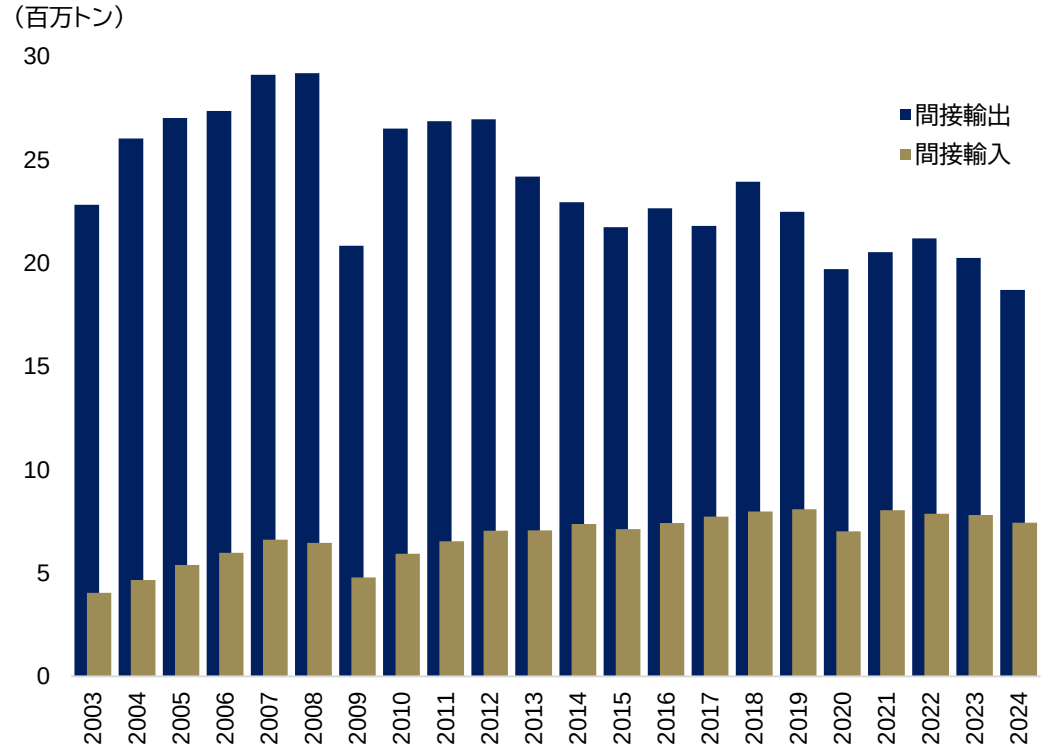
■ 鋼材間接貿易

- 我が国の間接貿易は、間接輸出が間接輸入を上回っている。
- 間接輸出は減少傾向を辿っている。2024年は、（2003年以降で最大の）2008年比で3割以上減少となっている。

■ 部門別間接輸出

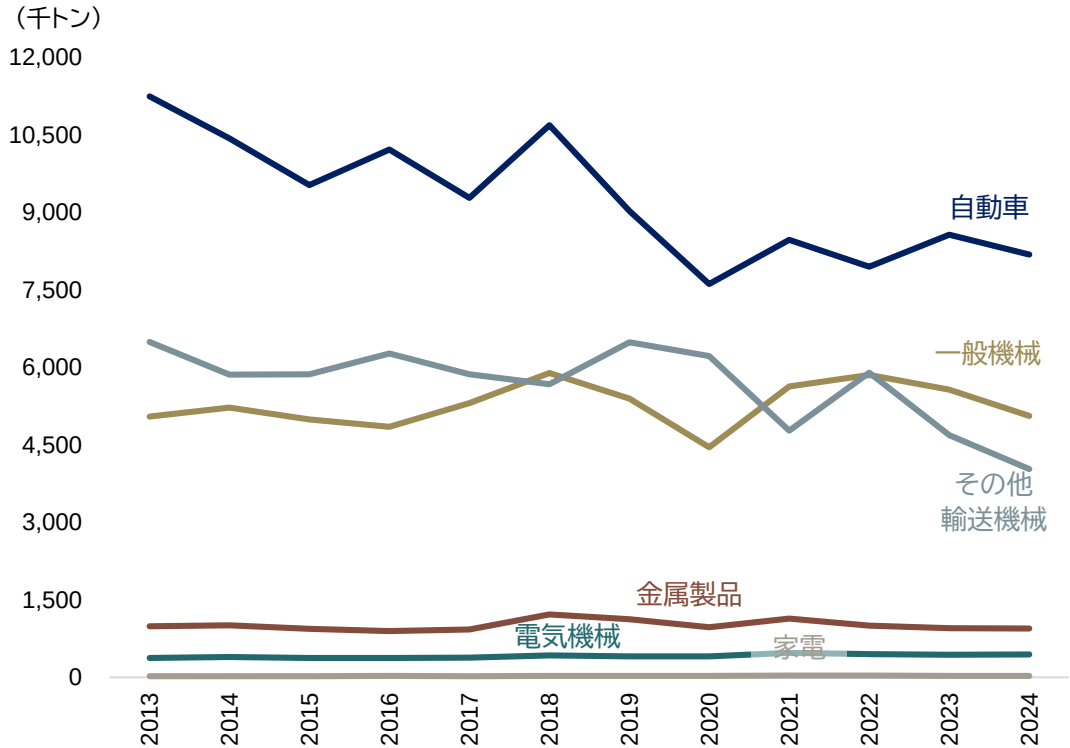
- 部門別にみると、自動車部門が最大であるが、日系自動車メーカーの現地生産などに伴い、同部門の間接輸出は減少傾向にある。
- 近年では、一般機械がその他輸送機械を上回る。一方で、海外生産を進めてきた家電分野の間接輸出は僅かである。

日本の鋼材間接輸出・輸入の推移



（出所）worldsteel

日本の部門別間接輸出



©2026 The Japan Iron and Steel Federation

True Steel Useとは

■ TSU（鋼材最終消費（間接貿易調整済））

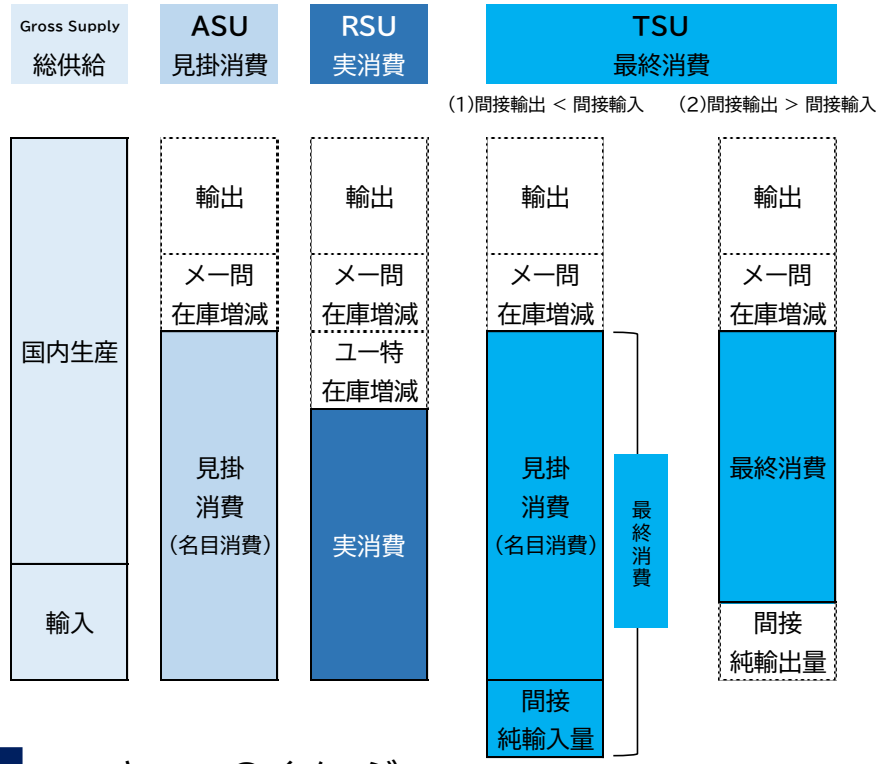
- worldsteelでは、間接貿易を考慮した、鋼材最終消費（TSU, True Steel Use）を提案・作成している。
- Molajoni and Szewczyk (2012)では、TSUは以下の通り定義されている。

定義

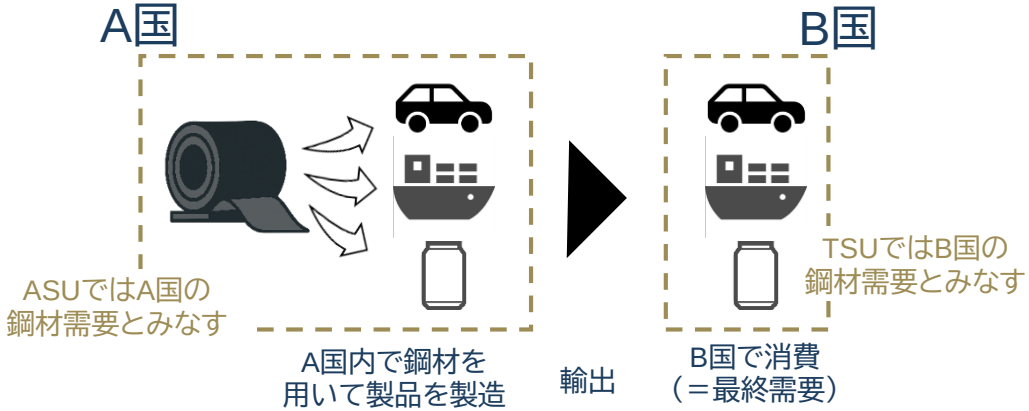
TSU = 鋼材見掛消費 ＋ 鋼材間接輸入 － 鋼材間接輸出

- TSUは鋼材需要を「最終消費地」ベースで考える需要指標である。
- 鋼材見掛消費に間接輸出入を加味することで、鋼材最終消費を求めている。
- TSUにより、「最終需要」の観点から、鋼材消費を分析することが可能。

鉄鋼業における需要指標のイメージ



ASUとTSUのイメージ

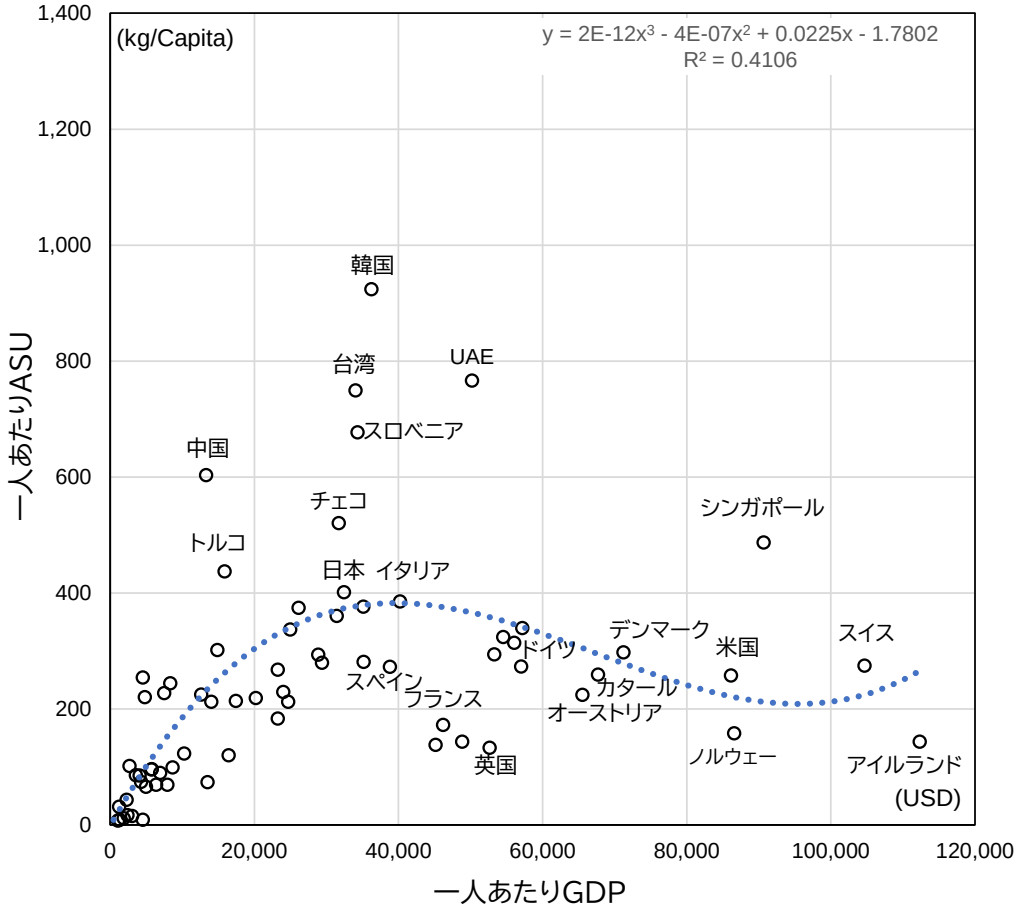


©2026 The Japan Iron and Steel Federation

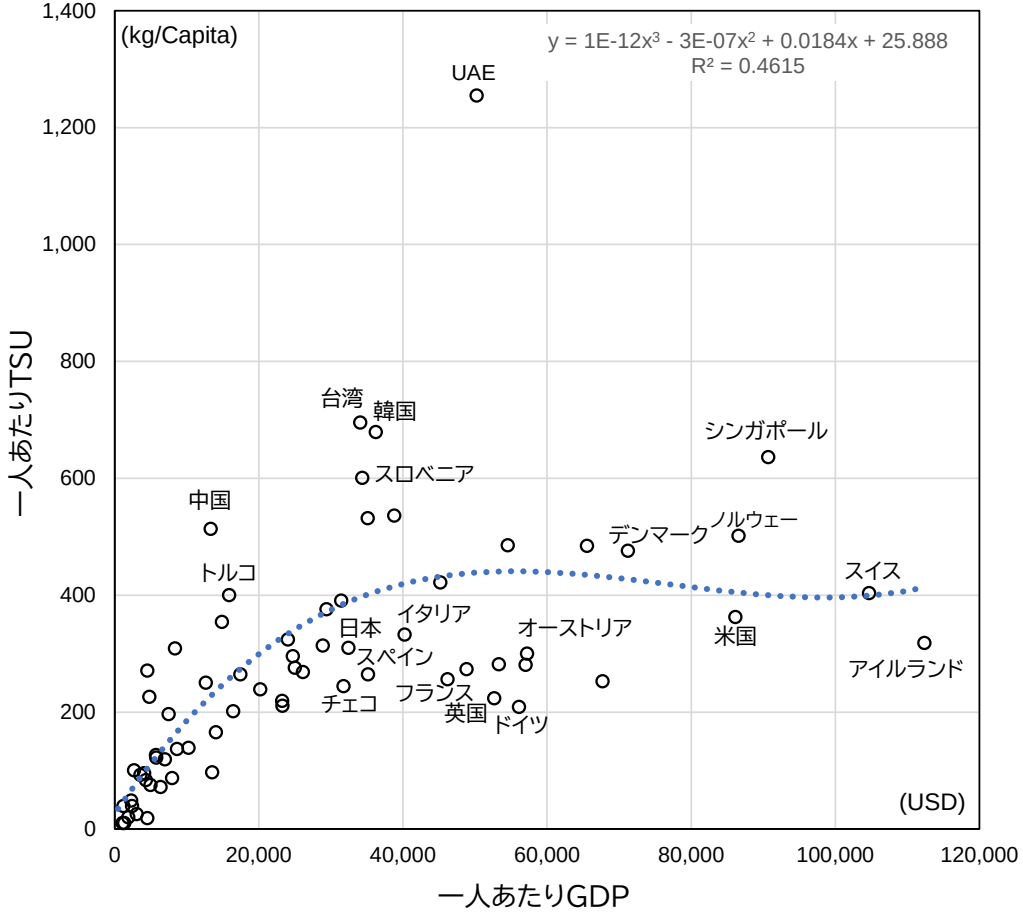
ASUとTSUの比較

- 2つの散布図(①一人あたりGDPと一人当たりASU、②一人当たりGDPと一人当たりTSU)を比較。
  【一人当たりASU・TSU水準の比較】中国や韓国など一人当たりASU水準の高い国を、TSUでみると、間接輸出分がマイナスに効くことから、下方へのシフト。他方、米国やUAEなどの間接輸入の大きい国では上方へのシフトがみられた。
  【一人当たりGDPとの関係】左図では、一人あたりGDPが4万ドルを超えるあたりから、産業構造の変化などから一人当たりASUは低下する傾向が見られる一方で、右図では、5万ドルを超えたあたりから頭打ちとなっている。

一人当たりGDPと一人当たりASU(2024年)



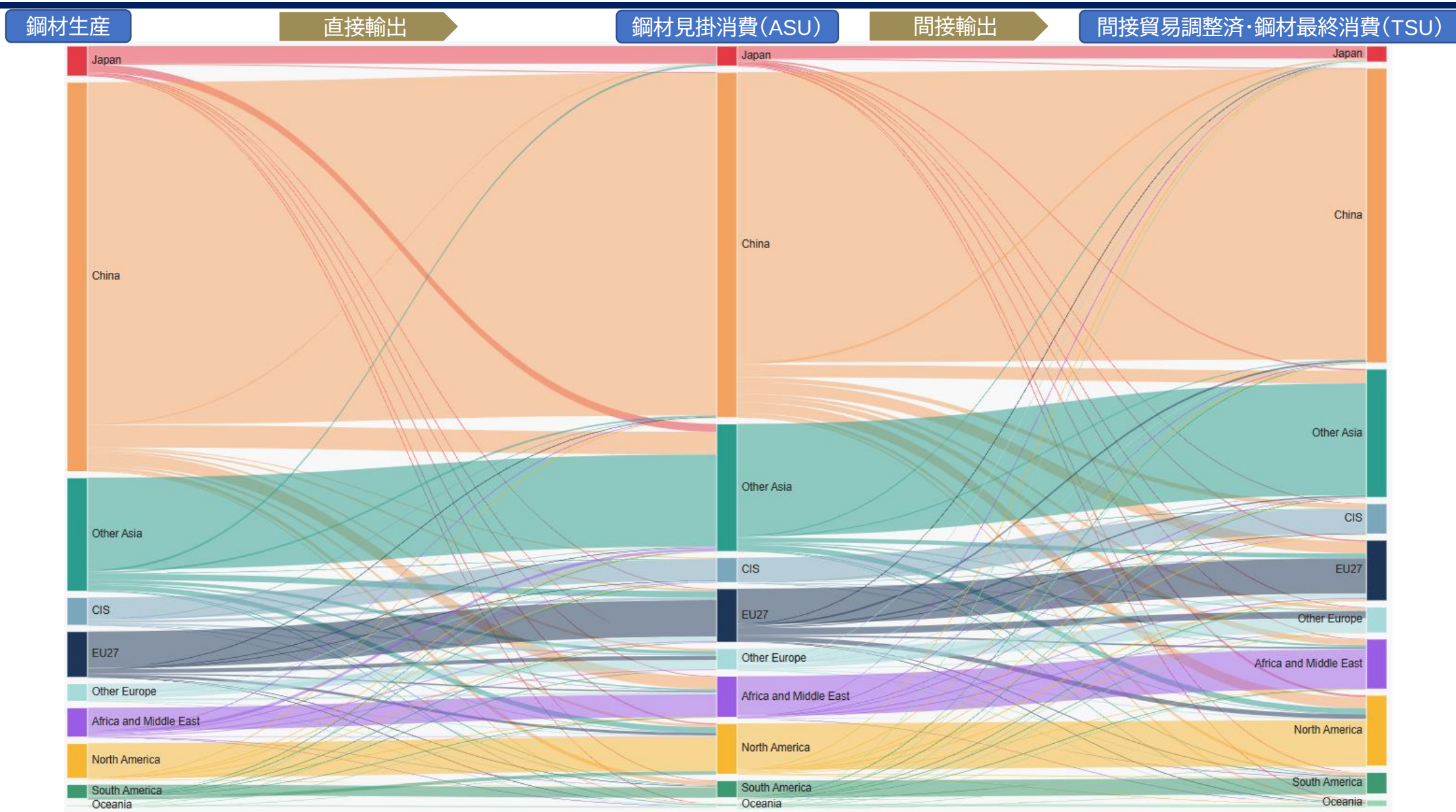
一人当たりGDPと一人当たりTSU(2024年)



(出所) IMF、worldsteelより事務局作成

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

鋼材の国際需給フロー図(2024年)



(出所) worldsteel、UN Comtradeのデータをもとに事務局作成。
(注1)鋼材生産は、worldsteel「Steel Statistical Yearbook」の鋼材見掛消費、鋼材輸出入を用いて推計。
(注2)間接輸出の向け先は、worldsteelの資料に掲載されていないため、UN Comtradeの輸出統計より推計。

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

課題

- 世界各国の鋼材間接貿易についてデータを公表しているのはworldsteelのみ。
- worldsteelの「Indirect Trade in Steel」を用いることで、74ヵ国・地域の鋼材直接輸出入・鋼材間接輸出入を需要部門別に比較することが可能。
- 他方で、以下の課題がある。
  - ➢ TSU推計に用いている鋼材原単位について
    - ✓ HSコード（6桁）ごとに原単位を設定している。
      一律の鋼材原単位を用いて推計を行っている。
      ➡世界各国で製造している製品の違いを考慮するのは容易ではない。
- 課題はあるものの、世界の鋼材間接貿易について、まとめられた唯一の資料であり、その価値を損なうものではない。

worldsteelによる鋼材原単位の設定

需要部門	鋼材原単位の範囲 (1トンあたり)
金属製品	0.80～1.10
一般機械	0.10～1.65
電気機械	0.35～0.60
家電	0.40～0.60
自動車	0.20～1.00
その他輸送機械	0.15～1.20

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

まとめ

■ 鋼材の間接貿易

- 世界の間接貿易の推移をみると、増加傾向で推移している。
  - ➢ 部門別（金属製品、一般機械、電気機械、家電、自動車、その他輸送機械）にみると、自動車が3割以上を占めている。
  - ➢ 国別の間接貿易（2024年）では、
    - ✓ 中国が最大の間接輸出国
    - ✓ 米国が最大の間接輸入国
- 我が国の間接輸出は減少している。部門別には最大の自動車部門が現地生産などに伴い減少。

■ 鋼材最終消費（間接貿易調整済）（TSU）

- ASU水準の高い国（中国・韓国等）は、TSUでみると間接輸出分がマイナスに働くため値が低下（下方シフト）。一方、米国・UAE等は間接輸入が大きく、TSUでは上方シフト。
- 一人当たりGDPとの関係：ASUは4万ドル超から低下傾向、TSUは5万ドル超で頭打ち。
- 鋼材の国際需給フロー図からは、中国の直接・間接輸出の大きさを視覚的に確認。

■ 課題

- 今回用いたworldsteelの間接貿易データでは、原単位が各国同一である点が課題。ただし、世界の間接貿易を取り扱ったものはworldsteelのものが唯一であり、価値が損なわれるものではない。

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

参考文献

1. Molajoni, P. and A. Szewczyk (2012), *Indirect Trade in Steel: Definitions, Methodology and Applications.,* Working Paper issued by World Steel Association.
2. worldsteel (2025), *Indirect Trade in Steel (2014-2024) report,* World Steel Association.
3. worldsteel (2025), *Steel Statistical Yearbook 2025,* World Steel Association.
4. worldsteel (2025), *World Steel in Figures 2025,* World Steel Association.

「Indirect Trade in Steel」、「Steel Statistical Yearbook」は、worldsteel公式サイトから購入可能

- Indirect Trade in Steel

  【URL】https://worldsteel.org/media/publications/indirect-trade/

- Steel Statistical Yearbook

  【URL】https://worldsteel.org/media/publications/ssy_subscription-2025/

©2026 The Japan Iron and Steel Federation

お知らせ

- 今回より、ウェビナー形式での開催といたします。
  - 資料につきましては、ウェビナー開催後、日本鉄鋼連盟のウェブサイトにて公開いたします。

（参考）日本鉄鋼連盟ウェブサイト：https://www.jisf.or.jp/data/hakusho/index.html

開催案内

- 鉄鋼需給説明会の開催案内は、メールマガジン「鉄マガ」にてお知らせいたします。
- 案内をご希望の方は、左のQRコードよりメールマガジン登録画面へお進みいただき、必要事項をご記入のうえ、お申し込みください。

一般社団法人 日本鉄鋼連盟
The Japan Iron and Steel Federation

一般社団法人 日本鉄鋼連盟
業務部 国内調査グループ
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館内
E-mail: chosa@jisf.or.jp
Website: https://www.jisf.or.jp/

©2026 The Japan Iron and Steel Federation